

東大阪大学・東大阪大学短期大学部

本年度、入学者数の減少を受け、入学者増加のための取り組みを最大目標として取り組んできた。受験生それぞれの能力が十分発揮できる入試の形態、確実に本学を受験してくれるように、AO入試の方法を工夫し早い時期から確定できる試みを工夫した。また、集中して高校訪問ができるようにきめ細かい計画を立てた。各学科の教員も、在学生在がいる高校を中心に、在在生の様子を知らせるとともに学科の特徴をアピールすることに重点を置き、高校訪問や出前授業を強化した。

その結果、2月20日現在の入学見込み者数*（[○]は昨年度）は、大学 こども学科 60人（52人） アジアこども学科 38人（12人） 短期大学部 実践食物学科栄養士コース 21人（27人） 製菓衛生師コース 24人（5人） 実践保育学科 59人（38人） 介護福祉学科 59人（66人）であり、約60人の増加が見込まれる。また、野球部を創設することによりアジアこども学科に野球部員として日本人学生10人（野球部員12人確保）が確保できたことが、アジアこども学科の増加につながり、留学生ばかりでなく日本人学生約20人を確保することができたことは成果である。来年度から野球部の活動が始まるか練習体制や、授業とクラブの両立ができるように、学内の環境整備に努めることで次年度の入学者確保にもつながると考え、体制作りをしていきたい。

本年度も介護福祉学科の日本人学生の確保に苦慮し、当初20人を目標としていたが10人とどまり、介護福祉学科の日本人学生募集のための体制を工夫し強化することが課題である。

アジアこども学科を学科名称変更の届け出準備を行い、令和3年度より国際教養こども学科と学科名称変更することが認可された。したがって、来年度の学生募集から新たな戦略を展開するため、具体的なアピールポイントを整理している。それと共に、学科の定員増を視野に入れ、本年度位の学生数の定着を図るため、教育内容の充実と募集活動の戦略を話し合っている。

基盤教育センターとキャリアサポートセンターを中心に、入学前教育から基礎学力向上（ヒガドリ）、専門科目の修得、就職対策へ、わかりやすいカリキュラムマップを作成し、学生が社会人になるための意識と能力を高めてきた。次年度はさらにそれを充実させ、学科の特徴となるよう、基盤教育センターのメンバーで工夫研究し、各学科と連携し作成している。

留学生が増加し、国際交流センターと各学科が連携を図り、留学生指導に努めている。特に、留学生の出席管理、日々の生活状況、授業料納入状況等は国際交流センターできめ細かく取り組み、留学生指導体制ができつつあるが、さらに学科教員、各部署の職員との連携意識を高めることが課題である。

情報教育推進委員会を中心に、学内ネットワークシステムづくりをし、教育効果を上げている。教職員間の情報共有や学生の情報を教員が共有できる環境を整えつつある。さらに、学内環境の整備に努めている。

月一回、職員部課長会を開催し、教授会の審議事項や報告事項の内容を共有、各部署での現状や課題等を話し合い、職員間の連携や教職員との協働のもと学校運営を向上させるように努めてきた。これは、部課長の担う役割や自覚を意識するための研修の場ともなっている。

以下、学科別、各部署別の事業報告を記載した。

【東大阪大学】

[1] こども学部こども学科

1. 初年次教育

平成 31 年 4 月 11 日～12 日、こども学科新生は「新入生宿泊研修」に参加した。こども学科では、研修 1「こども学の入り口に立とうー教員からの願いー」・研修 2「大学生活への準備ー学業・履修・実習についてー」（教員からの履修説明／先輩学生へのグループインタビュー）・研修 3「ゲームワークを通じた相互交流ー楽しくつながるー」・研修 4「頭の体操ー1 日目の振り返りとテストー」という構成で、こども学科での学びについて各学科教員・3・4 年次生とともにワークを行った。



平成 30 年度より開講した免許・資格必修科目「実習基礎セミナー I・II」では、実習の基礎知識と心構えを学び、附属幼稚園での見学・プレ実習（保育・運動会・バザー）、「こども応援ひろばパート I」への参加など、1 年次学生は実践を通して、子どもの現場での自身の役割を学んだ。学科教員は個々の学生の履修状況を把握し補習を行うなど、きめ細かに対応した。

実習基礎セミナー I (1 年次)

附属幼稚園見学 6 月 19 日



プレ実習（附属幼稚園運動会）10 月 13 日



2. こども学科 SDGs 宣言

2015（平成 27）年に国連で採択された SDGs（持続可能な開発目標）を令和元年 6 月、「こども学」において実現するべく宣言を行った。

3. 公立幼稚園・保育所採用試験対策講座

平成 29 年度より継続して「公立幼稚園・保育所採用試験対策講座」を行っている。「数的推理」「判断推理」等、1 年次から時間をかけて習得し、対応力・考察力をつけている。

4. 実習報告会

平成 29 年度より、保育・施設・幼稚園の実習後に、実習報告会を行っている。学生はサンプルを参考に実習内容をレジュメにまとめ、グループでそれぞれの



実習報告会 保育実習Ⅲ（施設）7 月 17 日



園・施設の情報を共有し、発表した。

5. こども研究センターとの連携

令和元年7月28日、本学こども研究センター主催の「こども応援ひろばパートI」が開催された。こども学科4年次の演習科目「子育て支援演習」では、学生が「こども応援ひろば」の企画・準備をして実践することで、親子の交流のあり方や子育て支援について学び、企画力・運営力を培うための重要な体験となった。また平成30年度より、資格必修科目「実習基礎セミナーI」を履修する1年次が参加し、本年度は4年次の補助にとどまらずダンス「パプリカ」を踊るパフォーマンスを行った。多くの子どもと保護者が参加し、学生の子どもへの接し方について、保護者の方々より非常に良い評価をいただいた。



卒業研究論文中間発表会 7月

6. 卒業研究論文中間発表会

令和元年度より卒業研究論文を作成する4年次生は、7月あるいは10月に中間発表会を行うこととなった。7月25日と10月10日、学生はレジュメを作成し、論文の内容・構成を充実させるべく、教員・学生と質疑応答を行った。



7. 附属幼稚園園児とのジョイントコンサート／園児を招いてのコンサート

丹山先生のゼミ4年次生が、令和元年10月20日の翔愛祭において附属幼稚園児とのジョイントコンサートを行い、令和2年1月23日に本学大講義室で附属幼稚園児を招いて2回のコンサートを開催した。音楽を共に演奏し、また子どもたちが音楽に合わせて踊るといった楽しい交流が実現して、学生には貴重な経験となった。

翔愛祭でのジョイントコンサート



附属幼稚園園児を招いてのコンサート



8. 卒業研究発表会

令和元年12月19日に、丹山先生のゼミの学生による卒業演奏発表会「パーカッションアンサンブルコンサート」を開催し、令和2年1月30日に、卒業研究論文発表会を開催した。

学生は、それぞれがゼミで取り組んで来た研究の成果を発表し、今後も活かすことができる経験とともに新たな課題を得た。

パーカッションアンサンブルコンサート



卒業研究論文発表会



[2] こども学部アジアこども学科

1. 新入生宿泊研修

学科別研修では、「私の思う大学生活」を基本テーマとし、大学生としての思考の訓練や意見交換の方法を学んだ。また、具体的な目標や将来の夢などを、個別に筆記し、グループの代表がこれを口頭にて発表しあった。更に担当教員より大学に入ってから学習、及び就職活動の時期とその準備、日本での就職市場の状況についての紹介があった。学生同士が仲良くなることにかなり重点を置き、その目標は達成できたと思われる。履修指導など、学生生活の指導も同時に行われた。新入生のうち、体調不良で欠席した1名を除き、全員が参加した。



2. 学園祭



2019年10月20日(日)に行われた学園祭では、事前の打ち合わせで従来の模擬店をせず、新聞紙を用いた子ども向け迷路を用意する予定であったが、大学祭運営の都合で急遽変更となり、インドネシア人留学生が提案した「蛇と梯子」と呼ばれる双六を展示した。就学前児童を主な対象としており、9号館2階の展示としてはそれなりの数の親子が「蛇と梯子」を遊んでいて、当番制の学生も充分に対応できた。



3. アジアこども学研修（フィリピン）

アジアこども学科2年生全員が参加する海外研修「アジアこども学研修」は本学科の必修科目である。今年度も11月3日から9日までフィリピン共和国のセブ島マンダウエ市に位置する国立セブ医科大学 ELS センターで行われた。日程は以下の通りである。

11月3日 フィリピン航空（PR409）にて関空 15：25 発、セブ島 18：45 着

11月4日 フィリピンの教育制度に関するセミナー

11月5日 マンツーマン英語レッスン、幼稚園、施設等の見学

11月6日 マンツーマン英語レッスン等

11月7日 マンツーマン英語レッスン等



11月8日 マンツーマン英語レッスン等

11月9日 フィリピン空港（PR410）にて9：05 セブ島空港発、14：25 関空到着

英語レッスン中心の研修のため、1週間の滞在期間中、毎日細かく設定されたレベルに応じて、フィリピン人の先生と一対一の英語レッスンが行われた（50分授業で

10分の休憩、毎日3コマ）。また、現地の教育施設の訪問も日程に生まれ、特に小学校では、児童とともに日本とフィリピンの単語を教え合う学習を現地小学校教員が事前準備してくれて、本学の学生も児童とのコミュニケーションが円滑にとれたと思われる。また小学校併設の児童保護施設も訪問

し、日本から持参した菓子を園児たちにプレゼントし、園児たちとマスゲームをして交流した。研修を通じて英語学習だけではなく、様々な施設を訪問したこと、外国で友だちと過ごしたこと、新しい友達と出会えたこと、色々な貴重な体験をしてきた。帰国後に催された研修報告会では、参加した学生たちは研修の感想と経験について率直な思いを述べ、実りの多い研修であった。



なお、本年度の研修には、本学科の学生19名のほか、短期大学部実践保育学科の学生1名、実践食物学科の学生2名の参加があった。

4. 学科誌「ASIA—社会・経済・文化—」第5号の発行

2011年、本学科の設立と同時に、学科特色の一つとして、また学科教員の研究活動に対する姿勢の表れとして、学科誌「ASIA—社会・経済・文化—」が創刊された。第2号を出した後、諸般の事情によりしばらく休刊していたが、2017年に復刊し、今年その第5号を発行し



た。学科内外の研究者の協力のもと、第5号は日中関連の論考をはじめ、読み応えのある力作が揃っている。他大学の学科誌と比較し、内容も装幀も遜色ないと自負している。論文・図書・雑誌等の学術情報データベース・サービス CiNii によれば、2020年2月現在、日本国内において76の大学図書館が本学科の学科誌を所蔵している。

【東大阪大学短期大学部】

〔1〕 実践食物学科

1. 実践食物学科 2コース制（栄養士コース・製菓衛生師コース）の充実

本学科は栄養士養成課程である「栄養士コース」と製菓衛生師養成課程「製菓衛生師コース」の2コース制となったが、各養成課程の必須科目はそれぞれ独立しているため、製菓実習関係科目担当として新たに迎えた教員とともに、新カリキュラムに基づいた授業運営と学生への指導を実施した。また、実習室や実験室及び各備品の使用についても適切な運営を図り、卒業時には製菓衛生師の国家資格を取得できる体制が整った。さらに、栄養士コースと製菓衛生師コースが連携し、高栄養価や生活習慣病予防を目的とした洋菓子およびパンの商品開発を行った。

12月に行われた三重県の令和元年度製菓衛生師国家試験において、製菓衛生師コースの受験者が高い合格率を残すことができた。また、昨年度より実施したテーブルコーディネーター初級の資格講座を引き続き開講し、9人が受講した。



「商品開発した焼きドーナツ」 「テーブルコーディネートとフラワーアレンジメントの授業」

製菓衛生師コースの学生(1年生・2年生)が作ったコオロギパン、コオロギ・イナゴクッキーなどの試作品を栄養士コースの2年生が卒業研究(昆虫食)として大阪や京都などの昆虫食イベントにて提供し、アンケート調査では好評であった。



昆虫食の料理



コオロギパン



イオンモール京都桂川で試食会

2. 入学前教育による学生の意識改革

栄養士や製菓衛生師を目指すための専門分野の学習をするにあたり、高校において化学や生物を受講していないなど、不安を持つ入学者がいる。また、高校までの授業と短期大学での授業の進め方などにギャップを感じる学生も多い。3月に入学前教育を受講することで、これらの不安やギャップが解消され、大学での心構えや大学の雰囲気を入学前に味わうことができ、

栄養士、製菓衛生師それぞれの資格を目指す動機づけに繋がったという学生たちからの評価があったため、引き続き実施した。

平成31年3月4日、5日に、平成31年度入学生を対象に、下表の通り入学前教育を実施した。6日には90分間（実習の3コマ分）の調理・製菓実習を行った。

日 程		2019年度入学前準備セミナー(実践食物学科)	
3月4日 (月)	9:00～10:30	短期大学のキャンパスライフと講義内容	松井
	10:40～12:10	基礎研究と産学連携	源
3月5日 (火)	9:00～10:30	食生活と食文化の基礎知識	富田
	10:40～12:10	食事バランスガイドで食生活チェック	山下
	13:00～14:30	食品の安全と食品衛生	濱田
3月6日 (水)	9:00～10:30	ティーパーティー用料理(実習)	岡本
	10:40～12:10	ティーパーティー用料理(実習)	
	13:00～14:30	ティーパーティー用お菓子(実習)	



「基礎研究と産学連携」の講義



「食事バランスガイド」の講義



「軽食・お菓子作り体験」の講義



「美味しく出来上がりました」

3. 初年次教育、リメディアル教育と ICT 活用教育

高校までの学習の中で、特に分数や割合といった計算力あるいは文章作成能力といった基礎的な学力が欠如したまま過ごしてきた学生の存在が、過去に実施した初年次教育とリメディアル教育で判明した。また、敬語を満足に使えない学生も多いことから、パソコンやスマートフォンを利用した基盤教育 Web 教材「ひがドリ」で、敬語の使い方を修得するための国語、実習や実験の科目の中で、学習内容に関係する簡単な計算問題を解かせる数学を中心に組み合わせた。学習不足のある学生を早期に発見するとともに、学生の基礎学力を向上させ、専門分野の学習へスムーズに移行させることで、就職面接や校外実習先で好印象を得られた。毎週、「ひがドリ」取り組み実施状況一覧表を教員間で共有することで、個別に実施を促すことができた。また、製菓衛生師国家試験の過去問を「ひがドリ」で手軽にパソコンやスマートフォンで学習できるようにし、受験者が高い合格率(89%)を残すことができた。

本年度より栄養士実力認定試験を試験的に行ったが、5人の申し込みに対し4人受験(忌引で辞退)し、全員がA評価であった。

4. 併設高等学校との高大連携強化

本学の付属学校の一つである東大阪大学敬愛高等学校の調理・製菓コースの生徒を対象として、単位互換科目としての授業(「食生活論」)や大量調理実習での試食体験を実施した。東大阪大学柏原高等学校のスポーツコースの生徒を対象とした「進路研究」でのスポーツ選手としての「栄養学の基礎」及びキャリアアップコースの生徒を対象とした「フードマネジメント」なども実施した。いくつかの授業を本学科の教員が担当することで、栄養士(食に関するミニ授業)、製菓衛生師(洋菓子、パン、カフェデザートなどの体験実習)それぞれの資格を目指す動機づけを行うとともに本学への進学を促した。その結果、栄養士コースの受験生は減少したが、製菓衛生師コースは飛躍的に増加した。担当する教員を増やし、大学・短大の陸上部の学生に対して実施している食生活習慣の改善プログラム等、よりバリエーションのある授業を展開し、高大連携の一層の強化を図った。また、調理・製菓コースの生徒を対象とした食生活調査を行い、その結果で改善すべき項目についてはフィードバックをし、健康的な食生活の改善に繋がるよう働きかけを行うとともに、本学内での製菓実習を4回(延べ135名)実施した。付属の柏原高等学校では6回(延べ90名)の出張授業(製菓実習)を行った。その他大阪府内の高等学校、7校で出張(製菓実習・ガイダンス)授業等を実施した。また、学内にて特別指定校(柏原・敬愛)向けに2回の講習会を開催した。



10月25日(金) 敬愛高校の生徒達にランチ(AF2Aの給食管理実習)を提供



敬愛高校・柏原高校の生徒達にワッフルやチョコレートなどの講習会



敬愛高校・大学の陸上競技部に「山下ゼミ」の学生からアスリート向けメニューの提供

5. 地域との連携強化による実践教育

地元東大阪市の野菜「小松菜」、「おかわかめ」、大阪府の「なにわの伝統野菜」、和歌山県特産の果実「オーラスター」、「梅」、京都府城陽市の「なつめ」、「茶葉」、「いちじく」、滋賀県甲賀市の「抹茶」、「ほうじ茶」、兵庫県篠山市の特産物など近畿の農産物を活用した。また、東大阪市大学連絡協議会をはじめ、各地域の団体と進めている商品開発に繋がる取り組みを、各教員の個人研究のテーマとして進めていくだけでなく、栄養士コースの「調理学実習」や「応用栄養学実習」、製菓衛生師コースの「製菓実習」をはじめとした調理を伴う実習や「卒業研究」に積極的に取り入れることで、学生の食物に対する知識を深め、食材の特性に沿った料理技術の習得を目指す実践的な教育を行った。製菓衛生師コースでは、企業研修（インターンシップ）の強化（2年間で2回）をすることで正規採用（大手企業）に繋がった。本年度は製菓衛生師コースの岡本先生が、道の駅「くろまろの郷」のイベント用に「バターナッツかぼちゃの焼きドーナツ」を商品化した。

2019年11月23日（土）、24日（日）の両日、道の駅・奥河内「くろまろの郷」にて「秋の大収穫祭」が開催された。その会場で、栄養士コースの2年生が考案した「バターナッツかぼちゃコロッケ」が販売された。また、地域活動として保健所主催の「食育月間『食育の日』推進キャンペーン」や校外実習先の高齢者施設にボランティアとして栄養士コースの2年生が参加した。

大阪や京都などで昆虫食イベント（試食会・講演等）を30回実施した結果、テレビ、ラジオ、ネット上（ヤフーニュース等）や新聞（東大阪新聞・読売新聞・朝日新聞・産経新聞）紙上に東大阪大学短期大学部が紹介された。



学内の公開講座 10/26(昆虫食)



学内の公開講座 11/16(モンブランロール)



10月14日（月）ひがしおおさか体感まち博2019「カラフルたこ焼き」



6月16日(日)ニトリモール東大阪にて保健所主催の「食育の日」にボランティア参加



11月23日（土）、24日（日）「くろまろの郷」にて「秋の大収穫祭」に参加し、「バターナッツかぼちゃコロッケ」は、完売した。



「くろまろの郷」にて「秋の大収穫祭」



予備のコロッケは、併設ベーカリー内で販売



5月19日(日)「くろまろの郷」自然観察会「生きもの遊び」に昆虫食のイベントとして参加。その様子を5月24日に朝日放送テレビ「キャスト」で放映された。

〔2〕実践保育学科

1. ダブルアシスト制の充実

クラス担任教員（アドバイザー）と小グループ担当教員（コーディネーター）とのダブルアシスト制を導入で、これまでの担任だけでは充分に対応しきれない問題にも対応することができている。特に、学科専任教員全員で学生達とかかわることで、学生と教員との距離感が縮まり、教員も個々の学生についての理解を深めることができ、学生たちも履修や実習での相談を積極的にするようになってきている。27年度から必修となった卒業研究発表もこのダブルアシスト制を活用したうえで、ゼミ単位取り組むことにより、学生たちに、「書く力」「調べる力」「発表する力」の基礎をつけていくことができた。

2. 入学前教育の実施

入学前教育を充実させるため、平成31年3月4日（水）～6日（金）の3日間にわたり、下記の表の通り入学前教育を行った。

「実践保育学科の学びから未来予想図を描こう」をテーマとして、「実践保育学科で学ぶこと」や各種実習（幼稚園・保育所・施設）についての説明を行い、学科の特性の一つでもある保育教材の製作やピアノ基礎演習についても学習し、入学後のスムーズの取り組みに生かした。

日 程	実践保育学科	
3月4日（月）		
9：00～	ガイダンス	乾（学科長） 921 教室
9：10～10：30 講義	感染防止について	池澤 921 教室
10：40～12：10 講義	保育の環境を考える（演習を通して）	後藤 921 教室
3月5日（火）		
9：00～ 10：30 講義 演習	幼児期の遊び活動から （A） 楽譜の読み方とピアノ基礎演習（B）	野尻 921 教室 篠原 231/241
10：40～12：10 講義 演習	幼児期の遊び活動から （B） 楽譜の読み方とピアノ基礎演習（A）	野尻 921 教室 篠原 231/241
13：00～14：30 講義	保育・教育について学ぼう	糸田 921 教室
3月6日（水）		
9：00～ 10：30 講義	身近な法律よもやま話	野々村 921 教室
10：40～12：10 講義	保育英語	大矢 921 教室
13：00～14：30 講義	セミナーを終えて	乾（学科長） 921 教室

3. 新入生宿泊オリエンテーションの実施

新入生を早く大学生活に慣れさせるために一泊二日の宿泊オリエンテーションを実施した。大学での学習の心得や資格取得に向けての取り組みなどを宿泊オリエンテーションで指導した。人に迷惑をかけることなく、自らの責任を果たし、一人の社会人として活躍することの意義を学ぶことや、自分を大切にすること、他人を理解すること、そして、互いに協力することを学ぶ取り組みを行った。新入生同士の親睦を深めることができるように留意したことにより、大学生活になじみやすい環境づくりにもなった。



宿泊研修での様子

4. 資格取得について

現在は、幼稚園教諭2種免許状、保育士証、社会福祉主事任用資格、認定ベビーシッター資格の取得が可能になっているが、31年度にあつては、これらの4つの資格をすべて取得した学生は少数で、多くは幼稚園教諭と保育士資格の2つを取得する学生が大半を占めた。幼稚園または保育士のいずれか1つの資格しか取得せず、あるいは資格を取得しないまま卒業して行く学生も若干名いたが、全体的には9割の学生が何らかの形で保育系関係施設に就職した。

また、本学内において保育系施設関係者による就職説明会を今年度も開催し、学生たちも熱心に各テーブルを回っていた。さらに、1年生を対象に就職活動スタートアップセミナーや就職試験一般対策講座を実施した。



就職活動 スタートアップ セミナー



就職試験一般対策講座

5. 学生の学習状況について

実践保育学科では、できる限り学生が幼稚園教諭2種免許状、保育士証、社会福祉主事任用資格、認定ベビーシッター資格の4種類の資格をすべて取得するように指導してきた。特に、認定こども園などの増加傾向にある保育行政の推移を考えながら、保育教諭として認められるには、幼稚園教諭2種免許状、保育士証の2つの免許・資格が必要であることを学生たちには、新入生宿泊オリエンテーションや、機会あるごとに学科の教員がそれぞれの授業の中でも詳しく説明をしている。



幼稚園実習の様子

また、本学科での学業の成果の集大成として、卒業研究において学科テーマとして「困難をかかえる子ども達」を設定し、各ゼミ担当者のもとで研究を行い、卒業研究発表会を1月31日にもち、パネル発表、音楽発表等を行った。また、大学祭でも昨年につき「オレンジリボン運動」をゼミの取り組みとして実施し、参加を呼びかけた。

各ゼミのテーマは、下記のとおりである。

- ・子どもの貧困と教育（乾ゼミ）
- ・外国にルーツを持つ子どもの現状と課題（大矢ゼミ）
- ・「困難」とは（野々村ゼミ）
- ・より多くの子ども達を楽しめる音楽活動（篠原ゼミ）
- ・テレビアニメに見る現代のいじめ（西木ゼミ）
- ・「子どもの困り感」に寄り添う（野崎ゼミ）
- ・「幼・保等で友達と群れあって遊べない子どもの分析と指導の手立てを探る（野尻ゼミ）
- ・ダウン症児の現状と課題（池澤ゼミ）
- ・さわる絵本製作（後藤ゼミ）
- ・虐待防止のために今私たちができることは（桑田ゼミ）



卒業研究（子ども食堂訪問の取り組み）



卒業研究 ゼミ別発表会（1月31日実施）

保育音楽

成果発表会

（1月31日実施）



6. ボランティア活動への参加

学科として、学生にインターンシップも兼ねボランティア活動に積極的な参加を呼びかけている。この2年間ほどは、学生のボランティア活動への参加も着実に増加している。

1年後期には「ボランティアに学ぶ」の授業を行ってきたが、参加への指導を入学当初から行う必要もあり、1年前期に「ボランティアに学ぶ」の授業を行い、1年後期・2年前・後期に演習に取り組んでいる。

7. 海外研修への参加

海外でも活躍できる保育者養成をめざし、本学科の学生が夏休みに主にアジアにある日本人向け幼稚園等の見学会に参加している。将来的には海外における保育施設等への就職も含め、今後も引き続き多くの学生を海外研修へと参加させていく予定である。

〔3〕 介護福祉学科

1. はじめに

我が国の人口構造の少子高齢化の伸長により、介護等を必要とする高齢者数は増加の一途をたどり、2025年には団塊の世代が一斉に75歳（後期高齢者）となる、所謂2025年問題を目前に控えている。その際、厚生労働省による試算では、不足するとされる介護要員は39万人を上回る。要介護者等に対して相対的に不足する介護要員について、本邦の若者の介護職離れは著しく、諸外国の有為の若者を招いて教育し、介護の一端を担ってもらうための施策が展開されている。技能実習生の介護への拡大、さらに介護福祉士の国家資格保持者に対する在留資格の付与等の積極策により、我が国の介護現場に主にアジア諸国からの介護要員が増加すると予測されている。

本学介護福祉学科は、地域に根差した高等教育機関として、東大阪市を中心とする地域の介護要員不足の解消のため、あるいは社会人への教育、介護家族の方々への方法論の学習機会の提供、地場産業との福祉機器等の産学共同研究、近隣福祉現場へのボランティア参加等を計画して運営している。

平成31年度は、邦人学生12名、留学生44名が入学し、2年次55名の体制で学習、実習等に励んだ。邦人の獲得は思うに任せなかったが、有為の留学生を多数迎えてスタートした。半数の学生は母国において高等教育を修了しており、専門職のライセンス保持者で優秀な者は6人に上る。一方、言語の相違はもとより、生活習慣、学習習慣の相違等もあり、途中で国家資格取得を断念する学生もあった。

2. 根拠に基づく行為（Evidence-Based Practice）の教育

介護福祉士の身分法である「介護福祉士法」から、排泄、入浴、食事の介助等を行う福祉士という文言が消去された。これらは現場におけるルーティーンワークであり、国家資格保持者の本来の業務ではないとされ、特に高等教育を修めた介護福祉士に求められるものは、根拠に基づく行為（Evidence-Based Practice）である。本学科の教員は、すべて他大学において教職を経験している者を採用しているため、高度な知識と技術の融合を目的とする教育を実施している。特に最新の自立支援、持ち上げない介護技術については、他の養成機関の追従を許さぬレベルで、正に介護の東京大学というに相応しい。本学科は、毎週木曜日にlunch-on meetingを実施し、教員の意思疎通を図り、最新知識の共有、研究成果のレビュー等、大学におけるスタンダードな学科運営をしている。

3. 地域貢献

本学の所在地である東大阪市において、各種施設に対するボランティア活動に積極的に参加し、中河内地区の介護施設等の介護要員を対象とする夜間講座を積極的に行い、好評を博している。大阪府社会福祉協議会の協力の元、多くの地元法人との交流を行い。本学科の評価はうなぎのぼりの状況である。東大阪市の行政と共に歩む学科を構築していくという目的のため、東大阪市介護認定協議会に人材を派遣している。地域に根差し、地域性を活かした学科づくりを更に推進するものである。

4. 国際介護学研究

本学科は、本邦の学生に加えて、韓国、中国、フィリピン、ベトナム、スリランカ等の、多くの国々の学生が共に学ぶという特徴を有する。アジアの介護先進国である我が国で介護福祉

を学び、地域社会の介護要員として勤務することは勿論であるが、母国の介護福祉のリーダーたる人材を教育し、アジア諸国に対して貢献することも目的とする。生活習慣、風習、宗教と異なる環境で、いかに介護を行うかという課題に取り組んでいる。国籍を超えた介護の共通基盤構築のための研究をたゆまず行っている。

【大学・短期大学部共通】

[1] 教学支援部（教務担当）

1. 教職課程及び保育士養成課程の新カリキュラムへの対応

教職課程及び保育士養成課程の新たなカリキュラムに従い、本年度の入学生からこども学科の幼稚園教諭一種、小学校教諭一種、実践食物学科の中学校教諭二種（家庭）、栄養教諭二種、実践保育学科の幼稚園教諭二種の各教職課程及び保育士養成科目において、開設科目の変更、科目名の変更、カリキュラム内容の変更、担当教員の変更を実施しました。

これに伴い、履修方法などの学生への対応や指導がしっかりとできるよう、各学科の教員と情報を共有しながら授業の運営を進め、適宜確認作業を行い授業に支障がないよう対応しました。

2. 学科名称変更手続き

こども学部アジアこども学科の学科名称を令和3年より国際教養こども学科に変更するため、文部科学省への事前相談に必要な書類を作成し、事前手続きを開始しました。

3. 実践食物学科製菓衛生師コースの対応

今年度に厚生労働省より示された製菓衛生師養成課程の教科目の見直しにより、実践食物学科製菓衛生師コースにおける開設科目の変更、科目名の変更、カリキュラム内容の変更、担当教員の変更等を行う必要が生じました。このため担当教員と綿密な連携を行い、適切な対応を実施し、申請書を作成し提出しました。

4. 介護福祉学科のカリキュラムへの対応

介護福祉学科の完成年度に当たり、養成施設として設定されているカリキュラム内容、時間割、教室の運用等について担当する教員と情報を共有することで点検を実施しました、さらに一部教員の変更が生じたため、時間割、開講日の変更等の対応をしました。

5. ユニバーサルパスポートの新利用方法への対応

- 従来、郵送で対応してきた保護者への成績表の送付を廃止し、保護者へユニバーサルパスポートの ID とパスワードを付与し、web 上で成績と出席の確認を行えるようにしました。これに伴い、各教員に対し、早めの成績入力および出欠入力を依頼するようお願いをした結果、利用について大きなトラブルや学生、保護者からの問い合わせは特になく、スムーズな移行ができたものと考えます。
- 教職員間での情報共有用サーバーが使用できなくなったため、一部の機能を G-mail や

Google Drive、Google Classmate といったクラウドサービスへの利用に切り替えました。

- 教員用のパソコンを Windows10 対応に変更しました。これらハード面、ソフト面のシステム変更に伴って各授業における学生への情報教育関係の指導に支障が生じないよう、各教職員への支援を実施しました。
- 入学予定者が、入学前教育として「ひがドリ」を実施できるよう、学籍番号を振り当て、パスワードを発行しました。

5. 免許更新講習の開催

8月19日（月）～8月23日（金）に実施し、必修領域に256名、選択必修領域に257名、選択領域に781名、延べ1,294名の方が受講されました。（昨年度より延べ人数64名減）

今年度も幼稚園・保育所（園）の先生方が多く参加され、参加された先生方からは「楽しく受講することができ、園でやってみようと思います。」「子どもたちの楽しみながら学ぶ姿が早くみたい。」などの感想をいただきました。また、免許を取得した卒業生も受講され、教職員と話しをする光景もみられました。



令和元年度東大阪大学教員免許状更新講習

講習日	認定番号	区分	講習の名称	担当講師	受講者 (認定 数)	事後評価平均点		
						I	II	III
8月19日	平31-30467-100964	必修	教育の最新事情1	乾 公作 渡邊由之	75人	3.7	3.7	3.7
8月19日	平31-30467-100965	必修	教育の最新事情2	野尻美津代 野崎之暢	181人	3.6	3.6	3.6
8月20日	平31-30467-302046	選択 必修	就学前教育の意義と小学校への接続	吉岡真知子	114人	3.8	3.8	3.8
8月20日	平31-30467-302047	選択 必修	道徳教育	野尻美津代 野崎之暢	71人	3.7	3.7	3.7
8月20日	平31-30467-302048	選択 必修	学校をめぐる近年の状況の変化	富田 昇 市橋正巳	35人	3.5	3.7	3.8
8月20日	平31-30467-302049	選択 必修	教育相談(いじめ及び不登校への対応を含む)	渡邊由之	37人	3.8	3.7	3.8
8月21日	平31-30467-507513	選択	こどもアンサンブル音楽	丹山三恵子	31人	3.9	3.8	3.8
8月21日	平31-30467-507514	選択	幼児期における基礎的能力の発達	富田 昇	112人	3.4	3.6	3.6
8月21日	平31-30467-507515	選択	食と成長	源 伸介	87人	3.8	3.8	3.8
8月21日	平31-30467-507526	選択	理科教育の最新事情・教材研究講習	杉本 剛	18人	2.9	3.1	3.2
8月21日	平31-30467-507517	選択	幼稚園における造形表現	松村和代	39人	4.0	4.0	3.8
8月22日	平31-30467-507518	選択	幼稚園、保育所等におけるアンサンブル音楽	丹山三恵子	35人	3.9	4.0	3.8
8月22日	平31-30467-507519	選択	子ども理解と児童期の心理	市橋正巳 高岡 忍	52人	3.8	3.8	3.7
8月22日	平31-30467-507524	選択	食の防災と食糧事情	松井欣也	34人	3.8	3.8	3.8
8月22日	平31-30467-507521	選択	Scratchを用いたプログラミング教育	矢島 彰	33人	3.6	3.7	3.7
8月22日	平31-30467-507522	選択	子ども理解と保護者理解(家庭支援を含む)	渡邊由之 川谷和子	114人	3.7	3.8	3.7
8月23日	平31-30467-507523	選択	小学校につなぐ英語活動	大矢智子 杉本孝美	35人	3.7	3.7	3.7
8月23日	平31-30467-507520	選択	食と健康	濱田尚美 山下絵美	39人	3.9	4.0	4.0
8月23日	平31-30467-507525	選択	学校の法律問題と子どもの人権	乾 公作 野々村宣博	37人	3.8	3.9	3.7
8月23日	平31-30467-507516	選択	国語教材・絵本の可能性	渡邊ルリ 井上 幸	76人	3.6	3.7	3.8
8月23日	平31-30467-507527	選択	幼稚園における造形表現	松村和代	39人	4.0	4.0	4.0
			計		1,294人			

7. 大学コンソーシアム大阪について

大学コンソーシアム大阪の単位互換事業として、次表のように他大学の学生を受け入れました。

学期	科目	所属大学	人数	単位認定者数
後期	こども学Ⅱ	近畿大学	6	6

8. 音楽棟の利用

2号館は、音楽棟として、大学生と短期大学部生がピアノの練習を目的として利用できる施設です。練習室は60室(アップライトピアノ)あり、全室防音・冷暖房完備となっていて、平日の9時から17時まで利用でき、音楽担当教員の研究室がありますが、利用日時は、変更する事があります。今年度の年間利用状況を以下に示します。

平成 31 年度 [音楽棟] 年間利用状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
	合計	559	976	763	996	1	268	925	894	674	372	0	0	6428
学生区分	短大 1	191	220	263	322	1	193	324	150	159	89	0	0	1912
	短大 2	165	370	131	283	0	74	282	303	99	9	0	0	1716
	大学 1	115	285	269	295	0	0	305	416	395	225	0	0	2305
	大学 2	20	48	74	19	0	1	12	10	11	23	0	0	218
	大学 3	66	46	20	76	0	0	2	10	8	26	0	0	254
	大学 4	1	7	6	1	0	0	0	1	1	0	0	0	17
	科目履修生	1	0	0	0	0	0	0	0	4	1	0	0	0
練習時間	～30分	29	56	30	36	0	15	23	23	16	23	0	0	251
	～60分	43	60	47	94	1	6	90	45	35	30	0	0	451
	～90分	455	816	641	826	0	240	778	809	598	308	0	0	5471
	～120分	26	28	22	18	0	3	23	10	16	6	0	0	152
	～150分	5	7	16	17	0	4	8	7	7	4	0	0	75
	～180分	0	6	2	2	0	0	0	0	1	1	0	0	12
	180分～	1	3	4	3	0	0	3	0	1	0	0	0	15

時間帯	～ 09 : 00	0	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	～12 : 10	379	741	576	798	0	240	822	780	578	283	0	0	5197
	～13 : 00	38	76	26	39	1	10	16	14	20	19	0	0	259
	～16 : 10	100	92	125	109	0	8	39	53	44	41	0	0	611
	～17 : 00	22	51	36	45	0	6	39	22	23	24	0	0	268
	～18 : 00	19	16	0	4	0	4	9	25	8	5	0	0	90
	～19 : 00	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	～19 : 30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

曜日	月	65	87	121	151	1	3	11	22	75	16	0	0	551
	火	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	水	143	295	275	290	0	187	328	163	156	97	0	0	1934
	木	222	323	124	230	0	71	297	291	110	33	0	0	1701
	金	119	271	208	215	0	7	289	418	238	226	0	0	1991
	土	10	0	35	110	0	0	0	0	95	0	0	0	250
	日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

また、15:30～16:30 の間 4 階 10 室を敬愛高校が以下のように利用しています。

月	使用日数	教員数	生徒数	平均生徒数 (1 日)
5 月	13	月、火、水 2 名)	67	5
		木、金 (1 名)		
6 月	13	月、火、水 (2 名)	51	4
		木、金 (1 名)		
7 月	2	月 (2 名)	7	4
9 月	16	月、火、水 (2 名)	69	4
		木、金 (1 名)		
10 月	8	月、火、水 (2 名)	24	3
		木、金 (1 名)		
11 月	14	月、火、水 (2 名)	38	3
		木、金 (1 名)		
12 月		月 (2 名)		
1 月	1	月、火、水 (2 名)	0	0
		木、金 (1 名)		

【2】 学生支援部（学生担当）

1. 社会のルールやマナーを守る重要性

本年度は本学の学生の全体的な規範意識が向上するように指導することを重視した。そして4月のオリエンテーションにおいて、キャンパスガイドないしはカレッジガイドに加え、「2019年度 学生生活は危険がいっぱい～必ず知っておきたい14のこと～」等を配布した。1年を通じ掲示板等でも社会に生きる一員としての自覚を持つように啓発活動を行った。ただ残念なことに決まりを守れない学生もみられ、年末年始に構内での自転車下車の指導を学生支援担当の教職員で行った。

2. 学園祭を通じて地域社会とのつながり

学生有志で組織される学園祭実行委員会が、東大阪市地域の方々や企業等に協力・援助を依頼し、学園祭を催している。学園祭は地域の方々と直接にかかわりあうことのできる機会であり、学生にとって社会の一員としての自覚が育まれるものである。本年度は2019年10月20日に「ZERO 新たなる挑戦」をテーマに催された。学園祭実行委員会のメンバーは学園祭の成功を期して、様々な努力を行っていた。しかし学生一般の気質の変化なのだろうが、積極的に学園祭に参加しようという学生が少なくなっている。それが模擬店出店にも表れ、以前に比し出店数が減少している。またビンゴゲーム開催時間が少々遅くなり、帰られた方々がいたのは残念だった。2020年度の参考にしたい。

3. 学生会・学友会による企画

例年と同じく新入生の入学時やクリスマスの機会などに合わせ学生交流会が開かれた。近年

本学において留学生が急増している。チューター・イベントが数回行われた、特にハロウィーン・イベントやクリスマス・パーティは盛り上がった。さらに年末の時期に恒例の電飾が飾られた。

4. ボランティア・アルバイト情報

ボランティアやアルバイト情報は、学生担当が内容を確認した上で8号館1階のラウンジ等に掲示している。さらに学生の就職につながりうるものについては、各学科の担当専任教員に紹介し、学生への告知を依頼している。

5. クラブ活動

本学のクラブ宛に講演依頼が来た場合、該当するクラブに連絡を取り、発表の場を紹介している。本学においてはクラブへの参加者が減少傾向にある。入学式や新入生歓迎会等で、新入生にクラブ紹介を行った。

文科系クラブ (3クラブ)

クラブ名	顧問	部員数
人形劇 (ブロッサム)	大矢智子	0
フォークソング	後藤由美	13
国際交流クラブ	井上幸	7

同好会 (4同好会)

クラブ名	顧問	部員数
音楽サークル	丹山三恵子	4
映画研究	大矢智子	3
柔道	鷹野和美	2
箏曲部	高岡忍	13

体育会系クラブ (8クラブ)

クラブ名	顧問	部員数
ダンス	渡邊ルリ	3
空手道	野々村宜博	4
フットサル	潮谷光人	9
バスケットボール	高岡忍	25
バレーボール	潮谷光人	9
軟式野球	渡邊由之	0
バドミントン	渡邊由之	23
陸上競技	富山朝代	17

大会名:第96回関西学生陸上競技対校選手権大会				
開催月日:5月19日			場所:大阪府 ヤンマースタジアム長居	
種目	氏名	学年	記録	順位
2部 やり投	小野 悟	CS1	66m01	3位
400m	川田 朱夏	CS2	54" 07	1位
400m	大西 愛永	CS1	55" 42	4位
800m	神菌 芽衣子	CS2	2' 12" 65	3位
4×400mR	岡野 紗季	CS4	3' 49" 44	5位
	逢坂 友利子	CS4		
	大西 愛永	CS1		
	畑田 星来	CS1		
砲丸投	上谷 詩織	AF2	13m17	5位
円盤投	上谷 詩織	AF2	39m14	5位
円盤投	木虎 莉奈	CS1	37m32	8位
やり投	山田 紗和子	CS3	44m94	8位
七種競技	山田 紗和子	CS3	4899点	5位
※8位入賞者 記載				
関西学生陸上競技対校選手権大会 総合結果				
女子総合得点	37点	8位入賞		
女子 トラック	23点	8位入賞		
女子 混成	4点	3位入賞		



大会名:第35回静岡国際陸上				
開催月日:5月3日			場所:静岡県・エコパ小笠山	
種目	氏名	学年	記録	順位
800m	川田 朱夏	SC2	2' 05" 58	2位

大会名:第6回木南道孝記念陸上競技大会 日本グランプリシリーズ大阪大会				
開催月日:5月6日			場所:大阪府 ヤンマースタジアム長居	
種目	氏名	学年	記録	順位
400m	大西 愛永	CS1	55" 21	6位
800m	川田 朱夏	CS2	2' 05" 22	4位

大会名:セイコーゴールデングランプリ陸上2019大阪				
開催月日:5月19日			場所:大阪府 ヤンマースタジアム長居	
種目	氏名	学年	記録	順位
800m	川田 朱夏	CS2	2' 05" 91	5位

大会名:アジアグランプリ				
開催月日・場所	①6月4日(重慶市江津区・中国) ②6月7日(重慶市オリンピックセンター・中国)			
種目	氏名	学年	記録	順位
①800m	川田 朱夏	CS2	2' 03" 60	4位
②800m	川田 朱夏	CS2	2' 04" 31	3位

大会名:2019日本学生陸上競技個人選手権大会				
開催月日:6月7日~9日		場所:神奈川県 Shonan BMWスタジアム平塚		
種目	氏名	学年	記録	順位
400m	大西 愛永	CS1	56" 85	8位

大会名:第103回日本陸上競技選手権大会				
開催月日:6月27日~30日		場所:福岡県 博多の森陸上競技場		
種目	氏名	学年	記録	順位
800m	川田 朱夏	CS2	2' 03" 35	2位

大会名:2019オールスターナイト陸上 The 59th JITA-IUAUJ CLASSIC MATCH 秩父宮賜杯 第59回実業団・学生対抗陸上競技大会				
開催月日:7月27日		場所:神奈川県 Shonan BMWスタジアム平塚		
種目	氏名	学年	記録	順位
800m	川田 朱夏	CS2	54" 73	3位
4×400m(3走)	川田 朱夏	CS2	3' 23" 83	優勝

大会名:第35回U20 / 第13回U18 日本陸上競技選手権大会				
開催月日:10月18日~20日		場所:広島県 広域公園		
種目	氏名	学年	記録	順位
U20 800m	神蘭 芽衣子	CS2	2' 11" 02	4位

大会名:Denka Athletics Challenge Cup 2019				
開催月日:10月19日		場所:新潟県 ビックスワンスタジアム		
種目	氏名	学年	記録	順位
800m	川田 朱夏	CS2	2' 09" 69	5位



〔3〕入試広報部

入試広報部組織の強化と対策

入試に関連する催し（オープンキャンパス、学生募集、入試方法、広報活動）等について、根本的に見直し変更し、新しい大学のイメージを強調した。

学生確保については、指定校の実績及び高校訪問時の担当教員との面談状況を確認し、高校とのつながりを密にした高校訪問を徹底し、受験生確保につながる努力をした。

特に、入試広報職員の業務の役割分担の再編成を行い、各職員が責任を持ってその役割を遂行できるよう連携体制を強化した。

特に、文部科学省から指摘されている「介護福祉学科の日本人学生 40 人確保」を目標に高校訪問や出前授業の展開等、積極的に取り組んだ。

学園両高等学校との連携強化を図り、出前授業、担当者間の情報交換等を行い、内部入学率向上に努めた。特に製菓衛生師コースへの入学者を確保するため、高等学校の担当者との連携をさらに強化した。

「入学者の充足率を定員の 100%以上にする」（充足率 100%以上）を基本目標として、下記活動を実施した。

1. 入試制度

社会の多様なニーズに対応するため、入試制度の見直しを行った。
具体的には、A0 入試において、オープンキャンパス参加型入試という新制度を設け、受験生のオープンキャンパス参加を促し、より本学を理解した上での受験機会の創出に努めた。加えて特別推薦校、指定校の見直しを不断に行い、高等学校との連携強化に努めた。特に、大学教員による高校への出張授業や説明会参加に注力した。

2. 広報活動

学内関係部署と連携を図りながら、効果的な広報活動を展開した。

- (1) 大学・短大案内等の広報資料は、高校生にアピールできる内容、表現に特化した。
- (2) 各種広報媒体については、費用対効果を図りながら実施媒体を選定した。
- (3) 高校内や会場での進学説明会への参加については、重要度を精査してより本学にとり効果的なイベントに参加した。
- (4) 高等学校等については、重点校を特定して具体的な学生獲得数を目標設定し、効果的な訪問を行った。
- (5) 特別協定校や指定校との信頼関係のさらなる強化を目的に、種々の高校イベントに参加し、高校の進路指導教員との関係強化を図った。
- (6) ホームページについては関係部署と連携し、本学の情報発信の核となるよう動画配信やイベント告知に注力した。

特にスマホや SNS 等の情報媒体を効果的に利用して、高校生に本学の魅力や特徴を直接的に訴えた。Twitter については、本学サイトの開設を行い、フォロワー数も 600 を超えるまでに増加した。

3. 学生募集活動の業務について

学内関係部署と連携を図りながら、合理的かつ効果的な募集活動を展開した。

- (1) 競合校より優位性のある本学の強み・魅力を高校生にアピールするなど、常に競合校を意識した募集活動を展開した。
- (2) 資料請求データ、高校訪問や進学説明会のデータ、オープンキャンパス参加データなど、客観的データに基づいてきめ細かく高校生に本学受験を働きかけた。
- (3) 高校側のニーズ、志望校選択のトレンド、競合校の動向等の情報収集に努め、それを学内にフィードバックし、学生募集活動を行った。
- (4) 本学（村上学園）の卒業者のネットワークを利用して、本学を保護者や高校生にアピールし、オープンキャンパスへの参加、さらに本学受験に結びつけた。

4. オープンキャンパスについて

オープンキャンパスを通じて本学の魅力や特徴を伝えるため、高校生が注目して興味を持つような内容のオープンキャンパスを企画・実施した。

- (1) チラシ、DM、ホームページ、高校訪問等あらゆる媒体を活用して、高校生にオープンキャンパスへの積極的参加を呼びかけた。
- (2) 学科の特徴をアピールしたミニ授業、継続的テーマを持ったプログラム、こども研究センターと連携したイベント、入試対策説明会など、高校生の目線でオープンキャンパスの内容を検討し、リピーターの増加、さらに本学受験へと結びつけた。
- (3) すべてのオープンキャンパス開催日に、ATP（アフタヌーンティパーティ）を新設し、本学短期大学部実践食物学科製菓コースの学生が作製した手作りケーキをバイキング方式で提供した。
- (4) 可能な限り本学学生主体でオープンキャンパスを企画運営し、高校生が親近感を持ち、この大学に在籍したいと思わせるような雰囲気づくりを行った。

5. 高等学校との連携強化について

高大連携の促進や、進路指導担当教員への働きかけを強化した。

- (1) 高校生にとって興味深い出張授業を企画して、本学の教育内容をアピールした。
さらに、大学教員による高校へ出張授業を義務付けて、高校との連携を深めた。
- (2) 系列校も含めた特定校に対し、本学教員による高校の総合科目の授業支援を行った。
- (3) 高校の進路指導担当教員に対する入試説明会をこれまでのホテル開催から本学での開催へと変更し、大学の施設見学や各学科によるプレゼンテーション等を行い、高校教員への本学への理解促進に努めた。

[4] 総務部

1. 補助金の確保

今年度、取組内容に該当する項目が少なかった。

それにより、平成31年度の一次交付額は昨年度と比べ1100万円減少している。

次年度、大学の入学生が増になっているため、一般補助の収入は多少増える見込みではある

が、短期大学は増える見込みがない。補助金獲得を目指していくには、補助金交付対象要件にあった規程等の整備や補助金獲得に特化したプロジェクトチームを作り補助金の獲得を目指さなければならない。

2. 予算の適正管理

予算執行時は、「購入等伝票」「出張届」「起案」等を事前に提出のうえ、決裁を得ることとなり、総務部4人のチェック体制をとり適正に管理した。

3. 水道光熱費の削減

平成27年度に実施した学内LED化が空調更新等の他の設備投資により一時中断していたが平成30年度は8号館すべてをLED化に完了した。令和元年度は9号館の一部をLED化完了した。

令和2年度も引き続き9号館の一部をLED化にし、5年以内には大学・短期大学部全館LED化を目指したい。

4. 公的研究費の管理

本学で整備している「個人研究費使用の手引き」「科学研究費助成金（学術助成基金助成金／科学研究費補助金）使用の手引き」をともに、令和元年9月5日に「研究倫理におけるコンプライアンス教育研修会」「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）」に対する本学の対応について研修を実施した。

また、科学研究費助成金継続者は大学0名、短期大学部1名の計1名、採用者は大学1名、短大0名であった。研究部門に係る経費及び管理部門に係る経費の定義で使用できる間接経費は、大学330,000円、短期大学部225,000円の合計555,000円であった。

研究課題

大学

(1)「戦後上海における国民政府の対日宣伝機関とその刊行物をめぐる多角的研究」

短期大学部

(1)「非行少年の社会復帰を目的とした表情認知能力の特性の分析と訓練プログラムの開発」



コンプライアンス教育研修会

【5】図書館

2019年度の入館者数（2020年1月31日までの集計）は、教職員を含めて3,187人、延べ貸出し冊数は、1,641冊だった。年度末前の集計であり、現時点では昨年度より前者は微減、後者は大幅に増加している。学生の新聞・雑誌・書籍など紙に印刷された文字媒体の利用率の低

下（活字離れ）が進行しているなか、いかにして学生の図書館利用率を向上させることができるか、日々工夫している図書館の努力の成果だったと思われる。

ここ三年間の入館者数、貸出数の推移は以下の通りである。

	入館者数	貸出数	
2017	3,391	1,661	
2018	3,543	1,291	
2019	3,187	1,641	1/31 現在

1. 教育・研究に役立つ資料の収集と提供

(1) より良い教育と研究環境の構築を目標に、収書方針に従い、2019年度も引き続き「辞書・事典参考図書」及び本学図書館の一大特色として目指している各国言語によるテーマ別「アンデルセン絵本コレクション」の充実を図ってきた。

その結果、2019年度末までの「辞書・事典類」冊数は2,638冊（2019年1月31日までの登録冊数）となり、「アンデルセン絵本コレクション」は、合計35カ国・地域、25言語数の416冊となっている。

当該コレクションの構築は長期にわたって継続収集する必要があるが、予算の削減及び図書館運営形態の変化により、冊数の増加及びテーマの拡充に影響を与えている。

(2) 2019年度末までの蔵書数は以下の通りである（括弧内は前年度末の数字）。

和書 75,821冊（74,933） 洋書 6,612冊（6,315）

雑誌 613誌（612） AV資料 3,707点（3,678）

厳しい財務状況のなか、いずれも増加している。和・洋書の合計は、現在80,000冊を超えている。

勿論、最新私立単科大学附属図書館の108,600冊の平均蔵書数（『平成30年度学術情報基盤実態調査』、2019年6月28日公開）と比較すれば、まだ相当な距離があり、更なる努力が求められている。（参考：私立単科大学数：217大学／合計蔵書冊数：23,566,119冊）

2. 図書館各種企画事業

2019年度も学生の図書館利用を促進し、教育活動を支援する目的で、各種企画を下記の通り実施した。

(1) 展示コーナーの充実

三年前から、図書館内に学科の特色を示す展示コーナーを設置し、展示内容の充実をはかってきた。展示テーマは「小学校国語教科書からみる近代日本の歩み」であった。明治初頭から現在までの小学校国語教科書の復刻版や参考資料を展示し、教科書内容の変化を通して近代日本の歴史及び教育の変遷の一部に触れることができる。また、「アジアの中の日本・日本の中のアジア」という企画コーナーも同時に設置し、日本とアジア諸国はどのような関係を築いてきたのか、今後はどのように変化していくのであろうか、関連書籍を展示・紹介をしている。今年度、その内容の更なる充実を図り、展示資料・書籍の購入、更新と追加を行った。

(2) 図書館通信「螢窓」

デザインを一新して4月号（春号）と10月号（秋号）を予定通りに発行した。教員を知る「窓」の役割を狙う「研究室訪問」を継続しているほか、「教員近著」の欄を新たに設け、学

生に教員の研究成果（出版物）を紹介している。

(3) 学生による選書ツアー

春（6月）と秋（11月）に二回実施。参加した学生は合計26名。（春17名、秋9名）、昨年度より参加者数が大幅に増えている（昨年度は18名だった）。

(4) 読書コンクール



今年度は関連授業と連動する形をとらず、計13編の自主応募があり、図書館が依頼した教員3名の審査により、優秀賞（2名）、佳作賞（1名）が選出され、2月27日に表彰式を行った。

3. 急を要する配慮事項

(1) 蔵書収納スペースの確保

現在、蔵書に対して収納スペースが狭隘となり、配架不可能な書籍が段ボール箱に収納されている状態である。この書籍の閲覧・貸出し手続きが非常に困難である上、新たな蔵書の整理も円滑に進まないため、新たな収納スペースの確保が必要である。今年度もその対策の一つとして科研費の間接費用等を用いて書架の増設を行った。

(2) セキュリティー装置の導入

2019年度蔵書点検の結果、新たに不明本が発覚され、セキュリティー装置の導入の緊急性を改めて認識させられている。

セキュリティー装置の未整備のため、懸案の地域社会貢献の一環としての外部開放計画も推進できない状態である。

(3) マイクロフィルムリーダーの更新

現在のマイクロフィルムリーダーは老朽化が進み、故障が多く、鮮明度も著しく落ちていく。修理部品が入手できないため、更新が必要である。

[6] キャリアサポートセンター

1. 就職支援対策講座

(1) 一般企業等の採用試験対策講座

1月 決起大会 4月から就職対策講座（履歴書・エントリーシートの書き方、面接対策、ビジネスマナー、卒業生の活動体験報告等）を実施

(2) 就職対策講座（幼稚園、保育所等）

5月13日ガイダンス（面接、マナー） 7月8日合同説明会 45施設、法人、幼稚園、保育園、企業参加 10月業界研究講座等を実施

(3) 教員採用試験対策講座

こども学科：毎水曜日 昼休み実施 長期になると参加学生減少

公務員対策講座

実践保育 こども学科：1月末 集中講習のため後半は参加学生減少



(学内合同就職説明会)

2. 就職活動支援

(1) 企業やその他の就職先の担当者を本学に招いての説明会

実践食物学科：6月、11月企業等担当者の説明会（キャリア教育の授業時間で企業、施設で実施）

(2) 本学卒業生が就職している施設等の見学会

実践保育、子ども学科：幼稚園・保育所・施設等職場見学として適宜実施

(3) 就職活動支援機関や卒業生・就職内定在学生による講演

実践食物：11月就職した卒業生より講演（企業・中学校）

実践食物 実践保育：2月就職内定学生が1年生に活動経過等の話



(就職内定学生の活動報告)

(4) 就職情報の整理・提供

キャリアサポートセンター内で受け付け番号順に整理、資料等は掲示、展示郵送等での時期が集中するので、後期は企業名との掲示に変更して、処理のスピード化ができた

(5) 就職活動に必要な講演会、決起大会等の開催

1月30日全学科の就職対象学年に対して決起大会を実施

3. キャリア教育支援

(1) 「キャリア教育」支援

4月マナー講座 5月面接講座 6月 適性診断テスト 10月業界研究
11月労働法制セミナー 12月、1月金融セミナー 12月エントリーシートの書き方
1月インターンシップについて 2月メイク講座等実施



(メイク講座 労働法セミナー)

(2) 「インターンシップ実習」支援

大学コンソーシアム大阪、東大阪商工会議所、東大阪市役所、大阪府私立幼稚園連盟主催によるインターンシップ等の窓口として、インターンシップ実習を紹介・斡旋している。主に7、8月に実施

短大は授業・実習が過密なため、日程等で条件が合わず、希望をかなえることが難しいケースが多い。

4. 就職先の開拓・拡充

(1) ハローワークや商工会議所等と連携した就職先の拡充

5月東大阪市内の企業による就職説明会 各企業との情報交換 7月合同就職説明会（東大阪市）各企業との情報交換に参加

学生と企業とのマッチングをするためのタイミングが大切

(2) 外国人雇用サービスセンター等と連携した留学生の就職先の開拓

6月留学生就職説明会 7月留学生対象就職説明会 11月留学生就職説明会 1月留学生就職説明会に引率参加 留学生、引率者ともに日本語力があつての就職を強く認識した。

(3) ハローワークや外部業者等と連携した障害のある学生の就職先開拓

8月27日学校連携イベント 11月施設見学

施設を見学することで、相談・紹介等がスムーズとなる。

(4) 本学学生の就職先訪問による新卒採用の維持継続の依頼

11月から企業・施設訪問 50社（栄養士、保育、幼稚園、介護等の法人、一般企業等）

卒業生、現役生が就職した、就職する企業等を訪問 卒業生の状況、会社の様子等の情報収集

(5) 各就職フェアへの参加の情報収集等

平成31年3月から令和2年1月 随時参加、学生引率等で参加、情報収集等
進路先を絞り切れない学生へのアプローチが課題となる。

5. 資格取得支援

実践食物：2月テーブルコーディネーター資格講座を実施

6. 進路指導・相談

随時実施（本学に求人依頼のあった事業所の紹介、応募書類（エントリーシート、志望動機自己PR）の作成指導、面接指導等を行う。

〔7〕 基盤教育研究センター

1. 成果と課題

(1) 基礎学力向上ツール「ひがドリ」を用いた学習支援・就職支援

【成果】

「ひがドリ」を活用した基礎学力向上策の運用を開始し3年目を迎えた。「ひがドリ」は基礎・応用（いずれも5教科）にSPI対策を加えた内容となっており、授業の隙間時間に活用したり、自宅や通学時間にも取り組んだりできるのがメリットである。

下表は、現在の在校生が「ひがドリ」（基礎）に取り組んだ時間をまとめたものである。大学では1・2・3回生が「ひがドリ」経験層となり、短期大学部ではすべての学年がそれにあたるようになった。つまり、「ひがドリ」への中途参加者が少なくなり、＜入学した時から行っている学生群＞が育ってきた。この3年間「ひがドリ」を積極的に活用してきたなかで、1・2回生における「個人の年平均」、つまり1年間に「ひがドリ」に取り組んだ時間に顕著な変化がみられる。よって、1・2回生においては、学習する時間の習慣化を図ることができていると言える。

学科	CS				AS			
	1	2	3	4	1	2	3	4
総学習時間	143時間 39分	397時間 59分	212時間 58分	143時間 51分	7時間 9分	37時間 54分	12時間 28分	10時間 38分
個人平均	2時間 42分	6時間 30分	4時間 36分	2時間 36分	30分	1時間 18分	30分	1時間 18分
個人の年平均	2時間 42分	3時間 15分	1時間 32分	39分	30分	39分	10分	41分

学科	AC		AF	
	1	2	1	2
総学習時間	270時間 10分	53時間 54分	176時間 20分	378時間 28分
個人平均	7時間 6分	48分	5時間 30分	9時間 0分

※個人平均の算出は、学年の総学習時間をひがドリ登録人数で割り、端数を切捨てた。

※個人平均は入学以後の積算時間のため、それを学年で割ったのが個人の年平均である。

表1 「CS・AS・AC・AFにおける在校生の「ひがドリ（基礎）」の取り組み時間

現在、「ひがドリ」は、大学および短期大学部（介護学科を除く）においてリメディアル教育及びキャリア教育に関する科目で積極的に活用され、学生理解・就職支援を支えるものとして定着している。

具体的には、「大学で学ぶ」「キャリアを考える」という科目などを通じて、「ひがドリ」の課題を設定して、それをクリアすることも取り入れられている。例えば、「〇月〇日までに、「ひがドリ」（基本）の国語「漢字のきまり」において実力診断テストを受け、100点を取る」などである。

こうした取り組みは、各学科の独自性を生かして行われており、学習の習慣化、基礎学力向上のみならず、実習準備や就職試験準備に用いられていることは一定の成果である。その点では、入学直後から学生の学力向上と就職支援対策に乗り出さなければならない短大の成果が目覚ましいものとなっている。AFは「ひがドリ」と「基礎学力判定テスト」を資格取得の判定目安としても活用しており、ACは公務員試験の受験者を増やす目的を立て、1回生への支援を集中させた（表1参照）。

「ひがドリ」に関しては、今年度の入学前教育を基盤教育研究センターが主体となって推進することで、入学前教育の主要課題として導入することができたのも成果の一つであった。

【課題】

一方で、次の課題も浮かび上がってきた。一つ目の課題は、学科間での取り組み状況に差が見られることである。

表1に示したような学習時間だけを取り出して分析するだけでは、正しい分析とは言えないが、まずは学習時間が問題となる。幸い、「大学で学ぶ」や「キャリアを考える」といったキャリア関連科目において、基盤教育研究センターに所属する教員が主体的に「ひがドリ」を取り入れていることもあり、CS・AS・AFは学生が一年間でどれだけ「ひがドリ」に取り組んだかを示す「個人の年平均」が3時間～9時間を示している。2年間での社会人育成を目指す短大は、その数値も非常に高く、就職支援に「ひがドリ」が活用されていることを証拠づけている。

しかし、ASやSCなど、留学生事情のある学科は、「ひがドリ」への取り組みも芳しくない。留学生の学習支援・就職支援において「ひがドリ」の活用可能性を探っていく必要がある。

また、CSにおいては、3・4回生になるにつれ、「個人の年平均」が低くなっていく。短大が就職支援に「ひがドリ」を活用し効果を出している状況に比して、大学は就職支援が必要な時期に「ひがドリ」が活用しきれていない現象であると言わざるを得ない。この現象を生み出している主たる要因は、3回生以降に「ひがドリ」を取り入れ得る科目がないことにある。これを打開するためには、非開講科目となっている「キャリア形成論」「社会人の基礎」の開講や、資格取得の一条件として「ひがドリ」上の特定の科目・領域において100点を取得するなどを設定することが考えられる。

二つ目の課題は、「ひがドリ」に取り組む際のモチベーションの維持である。他大学では、こうした活動に対して僅少な報酬（上位者にクオカードや図書カードを渡すなど）を与えている例がある。学生にとっては自分の能力を伸ばすためのものであるが、大学の取り組みという性格上、成果に対する目に見える評価も必要ではないか。今年度の会議においても話題に上ったことであるが、この点については来年度積極的に検討していく。

三つ目の課題は、「ひがドリ」上に学科の特性に応じた独自課題を作成することである。現在、AFが独自課題を充実化させており、その他にはCSの小学校教員採用試験対策の問題が

一部あるのみである。労力を惜しまなければ作成できるのだが、各センター員の担う仕事量や人員不足もあり、AF 以外は着手できていないのが現状である。

最後に、分析方法の課題が残る。この報告では、「学習時間」に焦点を当てたが、個人レベルでは「5 教科平均点」「教科別平均点」「テスト実施回数」「ドリル実施回数」「合計学習時間」などの主要項目を比較・検討し、実地的な個人の学習支援に結び付けていく必要がある。

以上が、現時点での「ひがドリ」に関する課題である。

(2)「基礎学力判定テスト」を用いた学力推移の把握

【成果】

基礎学力判定テストは、日本語と数学（基礎）の2科目を導入している。国語ではなく日本語としているのは、日常的な「読み・書き」の能力を把握するためである。

今年度は、実施時期及び実施回数は各学科の意向に沿って実施した。各学科のセンター所属教員が主体的に学生指導の方向性を考えていたため、学科の特性に合う活用法を見出そうとしたためである。

例えば、CS では、1 回生の「大学で学ぶ」と2 回生の「キャリアで考える」という必修科目、加えて2 回生の「実習基礎セミナー」において、複数の学科教員が初年次教育・キャリア教育（実習支援を含む）に携わるようになってきている。その結果、基礎学力判定テストの実施を待たずして、学生の日本語能力や基礎学力などの把握が容易になった。さらに、「大学で学ぶ」「キャリアを考える」の後期においては、2000 字程度の論文作成に取り組んだ。そのため、各学生の日本語能力に関しては、担当する3名の教員が学生の文章を読みながら理解を深めることができた。

また、AC においては、今年度から「大学で学ぶ」をセンター所属教員が担当し、当該科目において一定の到達条件を据えながら「ひがドリ」に取り組みせ、公務員を目指す学生の養成に力を入れた。2年という短期で公務員を目指す学生を育成するために、1 回生に基礎学力判定テストを定期的に受験させ、基礎学力がどのように推移したかを把握することができた。

同様に、AF においても、基礎学力判定テストを定期的に行うことで、基礎学力の変化を追いながら、能力別の就職支援を展開していった。

また、AS では、このテストを受験しているのは2 回生の日本人学生2名（CS の教員が担当する「キャリアを考える」に出席している2名）のみであった。1 回生は留学生のため行っていない。

今年度、「ひがドリ」と「基礎学力判定テスト」という自前のツールを用いながら各学科が行ったことは、次のようにまとめることができる。つまり、大学としては、〈初年次教育・リメディアル教育と日常的な学習活動の連立体制の構築〉が目指され、短大としては、〈公務員・優良企業に就職する学生の育成への挑戦〉を目標とした。それぞれの目標に堪えうる活動となっているかどうかは、引き続き、事業全体を見据えた検証が必要であるが、大きな試みの一年であった。

公務員への挑戦は、全学の課題でもあると言えるが、今年度のAC1 回生が、今後どのような進路選択をするか、来年度はその部分の分析が必要である。

なお、各学科の実施時期や実施回数については、次表の通りである。

学科 時期	CS		AS		AC		AF	
	1回生	2回生	1回生	2回生	1回生	2回生	1回生	2回生
4～5月	○	—	—	—	○	—	○	—
7月	—	—	—	—	○	—	○	○
10月	—	○	—	○	—	—	—	—
1月	—	—	—	—	○	—	○	○

表2 「CS・AS・AC・AFにおける基礎学力判定テストの実施時期・回数」

【課題】

今年度は、予算面への配慮から、学科間で実施回数を調整しながらテストを行った。その結果として、学科間でテストの実施回数に差が生じた。しかし、この差は学科の特徴を反映してのものであり、各学科がそれぞれ直面する課題や状況に応じて基礎学力判定テストを活用し始めたがゆえに生じたものである。差こそあるが、このこと自体は事業としての前進であると言える。

表2にあるように、短大においてテストの積極的活用が目立つのは、入学早々から就職に向けた本格的指導が始めるからである。短大においては、初年次教育・リメディアル教育・キャリア教育が、入学年度から分かれ難く結びついており、今年度はそれが色濃く反映された。

一方、大学においては、とりわけCSにおいて教員集団が一丸となって学生理解を深めつつあることから、日常的に学習支援が必要な学生を把握することが可能となっており、1コマ分の授業を削ってテストを行うよりも、1コマ分を削らずに実のある活動をさせることが選択された。ただし、テストの結果が、学生を指導する際の「根拠」となることを考慮すれば、少なくとも年に2回はテストを実施して、その変化を授業成果と照らし合わせてみるのも有効な手段ではある。

ただし、4年制大学においては、むしろ3・4回生の後半期に、学生の基礎学力を計っておきたい。「大学で学ぶ」「キャリアを考える」の1・2回生必修科目でしかテストを行っていないが、その枠にとられなくてもよいのならば、3回生の前期と後期に基礎学力判定テストを実施し、就職支援を行う際の具体的な根拠として活用することができないか、今後、探っていきたい。

なお、SCについては、「ひがドリ」同様、基礎学力判定テストの活用法も、今後検討していただく。

(3) 「入学前教育」の抜本的改革に着手

【成果】

これまで入試広報部が主導してきた入学前教育が、今年度後期から基盤教育研究センターの担当となった。急遽、時期・回数・内容等の議論を行い、各学科の主体性と独自性を尊重した入学前教育の在り方を模索してきた。その結果、今年度は次のような内容を準備することができた。短期間での準備となったが、各学科のセンター所属教員が窓口となって主体的に内容を取りまとめた。

2020年2月28日現在、入学予定者の「ひがドリ」取り組み状況は、全体の半数近くとなっている。

入学前教育

- ・「ひがドリ」を活用して5教科の基礎問題に取り組む。(学科によって到達目標が示された)
- ・「学びの泉」を活用して学科独自の課題に取り組む。

入学前セミナー ※新型コロナウイルス感染症拡大による対策で中止となった。

- ・各学科で内容を考え、2時間のセミナーを行う。
- ・保護者向けセミナーを全額共通で開催する。

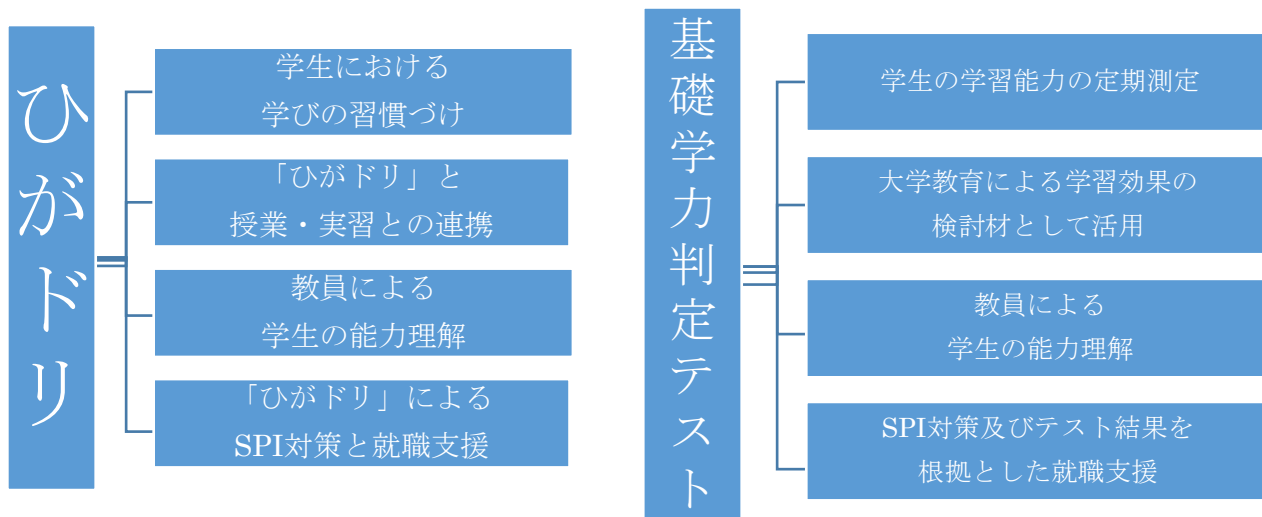
【課題】

来年度に向けた課題としては、合格者への合格通知発送時に入学前教育への案内を行うこと、合格者が受験後すぐに入学準備を整えられる環境を作ることである。入学するかしないかがわからない時点での課題設定であるため、入学後に特定の教科において加点をすることや合格時期によって優遇されることがあってはならないが、あくまでも事前学習として内容を吟味していきたい。

2. 2020年度の焦点課題

昨年度、教員間の意識格差について「課題」であるとしたが、各学科にセンター所属教員がおり、センター所属教員がいないSCは窓口となる教員が出てきたことから、かつてのような意識格差を感じることはなくなった。そのため、各学科が主体性を発揮して、学科の特性に応じた学生支援の方法と実践をさらに深めていくことが、2020年度の大きな課題である。

また、「ひがドリ」と基礎学力判定テストを下図で示すような意味生成のツールとして把握し、それぞれの可能性も探っていく。そのうえで、下記(1)～(6)の課題を2020年度の焦点課題とする。



- (1) 日本人学生の日常的かつ継続的な「ひがドリ」活用を促し、とりわけ資格取得を目指す学生の基礎学力向上を図る。「ひがドリ」内への独自教材の作成も視野に入れる。
- (2) 基礎学力判定テストをリメディアル教育の手段としてだけでなく、就職支援においても活用する。その際、キャリアサポートセンターとも情報交換を密に行う。
- (3) 「ひがドリ」と基礎学力判定テストの個人レベル・学年レベルでの詳細分析を行えないか、具体的な検討を始める。予算及び人員確保の論議も重ねて行う。

少人数指導の体制を敷きつつある各学科において、学生の学力データを参考にした、きめ細かい個人指導と就職支援の連動を図ることが急務である。それを担うゼミの担任に対

しても積極的な情報提供を行っていく。

- (4) 魅力的かつ意味のある入学前教育を準備し、合格者の入学までの時間を有効に活用する。
- (5) 基盤教育センターにおける「基盤教育」とは、基礎学力への働きかけ（リメディアル教育）を主眼とするが、学生の学習能力の養成（初年次教育）、就職や生き方に対する意識の涵養（キャリア教育）とも関わりが深い。これら3つの教育活動にさらなる循環を生み出し、それぞれの質を向上させるために、学力面以外（生活面の課題や出席率等）にも目を向け、有効な学生理解の方法・研究を探っていく。

[8] 保健センター

保健室及び学生相談室の活用について、より多くの学生・教職員に周知を図るよう努めた。また、学生の状況に応じて、協議を重ね、学生のメンタルヘルスの向上に貢献した。

保健センターでは、「保健室」と「学生相談室」を設け、「こころ」と「からだ」の両面から支援する体制をとっている。基本的な活動として、①健康診断の実施とその結果に基づく健康管理・健康増進支援、②心身の健康相談・支援、③安全衛生諸活動 などがある。

定例の教授会では、毎月利用状況の報告を行った。

(1) 保護者面談

例年通り保護者面談を入学の式当日に実施し、学生の心身の健康に関する相談にのった。情報については、保護者の同意を得て管理職をはじめ当該学科に報告し、校医・教職員などと連携して入学後のより良い学生支援に繋げた。疾病、障害に関することなど様々な相談があり、保護者面談をきっかけに、継続した学生支援につなげることが出来た。

(2) メンタルヘルス

学生の状況に応じて、事例研究・支援の進め方について密に協議を重ね、学生のメンタルヘルスの向上に貢献した。

(3) 啓発活動

学生・教職員のより良い支援を目指すため、保健センター通信「NEWS LETTER」を2回発行し、啓発活動に努めた。心身の健康に関して、学生生活に役立つ情報を発信し全学生・全教職員に配布した。



(4) その他

近年、多様な学生が入学してくることを踏まえ、保健センターが利用しやすい場所となるように努めた。保健室と学生相談室の連携を密にし、協働支援すべく環境整備を図った。また、学生生活に不安をもつ学生や、配慮の必要な学生への対応を講じ、中途退学の予防に努めた。

1. 保健室

保健室では、学生・教職員の健康診断、健康相談、突発的な傷病に対する応急処置を始め、健康診断証明書のデータ作成、学生・教職員健診のデータ管理、各種業務統計及び各種届出等を行っている。また、学生が利用しやすい場所に設置されていることもあり、学生生活に関する様々な窓口としての役割を担った。

(1) 健康診断

学生・教職員を対象として法令に基づく定期健康診断を実施した。また、健診実施に関する問題点を明確にし、健診業者との綿密な協議に努めたことにより、実施・事後措置の充実を図った。

定期健康診断後、有所見者には問診・再検査・精密検査・生活指導等を通じ、健康に対する自己管理支援を行なった。胸部疾患の早期発見には定期健康診断が重要であり、経過観察の必要な学生については、受診経過の追跡に努めた。

さらに近年、再三の再検査呼び出しに応じない学生の増加に伴い、学科長・アドバイザー・実習担当者と協働した結果、再検査期限内での実施率が向上し、実習準備業務の効率化に繋げることができた。

(2) 外傷・疾病への対応

学生・教職員の外傷、疾病に対する応急処置を実施した。月曜日～金曜日 9:00～17:00 保健室を開室した。今年度は、看護師・保健センターの教員 2 名の各週 2 回（1 日 3 時間）在席し、オープンキャンパス、入試、イベント等、救護待機の対応に努めた。

また、学生・教職員の疾病や外傷に関する健康相談を実施し、必要に応じて管理職・教職員・医療機関等との連携を図った（利用状況は次頁表参照）。

(3) その他

健康教育の積極的取組みとして、例年通り東大阪市西保健センターと協働し学内喫煙活動を実施した。また、労働者のストレスチェック制度の施行に伴い、ストレスチェック制度に関する業務全般を調整し、学生・教職員の健康の保持・増進に取り組んだ。

さらに、安全衛生管理者を中心に労働安全衛生委員会にて協議し、教職員の労働環境確認・改善に努めた。

1. 保健室利用状況 (令和2年 1月 30日現在)

(1) 短期大学部

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
1年次	内科系	3	1	0	1	2	0	5	10	1	1			
	外科系	0	2	6	3	0	2	2	0	2	0			
	健康相談・他	6	4	2	0	1	2	6	7	6	2			
2年次	内科系	1	5	2	3	0	1	5	8	2	2			
	外科系	2	1	5	7	0	0	7	1	5	2			
	健康相談・他	12	3	4	5	0	3	10	11	10	3			
計 (昨年数)		24 (11)	16 (22)	19 (32)	19 (26)	3 (1)	8 (22)	35 (33)	37 (14)	26 (19)	10 (28)	(1)	(1)	()

他：皮膚・歯・口腔・眼・耳鼻・他

(2) 大学

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
1年次	内科系	2	3	5	8	0	0	1	0	1	2			
	外科系	0	2	1	6	0	0	3	3	0	1			
	健康相談・他	2	8	12	1	0	0	3	6	2	2			
2年次	内科系	1	9	0	2	0	0	2	3	0	3			
	外科系	0	3	6	2	0	1	2	5	0	1			
	健康相談・他	1	2	8	2	0	0	2	5	5	2			
3年次	内科系	0	1	0	3	0	0	1	0	0	0			
	外科系	0	5	2	0	0	1	1	4	1	0			
	健康相談・他	3	2	0	1	1	0	0	1	5	0			
4年次	内科系	0	8	4	4	2	0	2	3	2	2			
	外科系	3	7	5	1	2	0	8	5	6	1			
	健康相談・他	8	8	22	6	4	0	5	7	4	3			
計 (昨年数)		20 (29)	58 (52)	65 (29)	36 (54)	9 (10)	2 (4)	30 (33)	42 (43)	26 (37)	17 (43)	(1)	(0)	()

短大・大学／合計 (昨年数)	44 (40)	74 (74)	84 (61)	55 (80)	12 (11)	10 (26)	65 (66)	79 (57)	52 (56)	27 (71)	(2)	(1)	()
-------------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	-----	-----	-----

他：皮膚・歯・口腔・眼・耳鼻・他

(3) 教職員・他

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
件数 (昨年数)		2 (2)	2 (6)	8 (4)	7 (5)	3 (1)	2 (1)	3 (3)	2 (2)	0 (3)	2 (6)	(2)	(2)	()

他：附属校・来学者等

2. 学生相談室

学生相談室では、学生・保護者・教職員のカウンセリング、コーディネート、コンサルテーション、学生支援に関する相談業務に努めている。

(1) 学生相談

学生相談室が利用しやすい空間になることを目指し、ポスター掲示、心理テストの案内等を行い、来室を促した（利用状況は下表参照）。個別カウンセリングや、学科と連携した修学配慮支援、自立支援（就職・進路）も行った。

2. 相談室来談状況 (令和2年1月29日現在)

(1) 月別来談者数

短期大学部	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
1年	12	8	12	22	0	2	2	0	0	0			58
2年	19	11	8	12	0	2	10	13	8	6			89
計	31	19	20	34	0	4	12	13	8	6			147

大学	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
1年	0	1	0	4	0	0	0	0	0	0			5
2年	0	0	0	2	0	0	0	0	1	0			3
3年	6	4	2	4	0	0	3	6	3	2			30
4年	38	30	0	0	0	0	1	1	0	0			70
計	44	35	2	10	0	0	4	7	4	2			108

<その他>

メール・電話	3	4	4	6	0	7	3	0	3	1			31
履修生・保護者等	6	6	4	10	0	2	2	0	2	3			35
その他	13	8	16	22	0	4	7	17	9	11			107
計	22	18	24	38	0	13	12	17	14	15	0	0	173

その他；ケース会議等

総合計	97	72	46	82	0	17	28	37	26	23	0	0	428
-----	----	----	----	----	---	----	----	----	----	----	---	---	-----

ティーアワー：4月：64名、5月：45名、6月：6名、7月：6名、8月：0名、9月：0名
10月：0名、11月：0名、12月：0名、1月：0名

延べ面接回数 428回/年
実人数 33名/年
(学生のみ、メールは除く)

(2) 内容別相談者数/月別

内容項目	修学	進路	就職	クラブ	適応	性格	対人	恋愛	家庭	テスト	アルバイト	宗教	心理テスト	その他
来談者数	2	1	0	0	0	3	3	2	5	0	0	0	0	0

(内容複数ある場合、複数カウントしてあります)

その他；体調不良、人間関係トレーニング他

(2) 啓発活動

入学式・新入生へのオリエンテーション等で、学生相談室の案内・活用に向けた説明をする時間を設け、カウンセリング希望の新入生に心理的な抵抗を少なくするように働きかけ、学生相談室へいざなう活動に取り組んだ。

(3) ティーアワー

昼休みに学生相談室を開放し、学生相談室の利用が広がる活動に取り組んだ。ティーアワーへの参加者は、学部・学科を超えた交流ができ、初対面の学生と歓談する様子もうかがえ

た。友人関係の構築が困難な学生にとっては、物理的・心理的な居場所として機能する点が評価された。しかし一方で、学生相談室が安心感のあるたまり場になり、授業に行きづらくなってしまった学生もいたため、次年度は、新入生を対象の中心とし前期に限定するなど、実施に工夫が必要だと思われる。

(4) 人間関係トレーニング（グループワーク）

不登校・保健室登校の経験があるなど、多様な学生が入学してくる現状を踏まえ、希望者を対象とした人間関係プログラムを提供した。新入生への入学時オリエンテーションでアナウンスを行ったが、新入生の参加希望者は0名であった。ティアーアワーに以前から参加し顔見知りだった在校生では3名の参加があり、自分や相手の気持ちを考えることが容易になり、人間関係を作る上で効果があったとの感想を得た。

(5) その他

職場のメンタルヘルス対策が急務となっている社会的現状を踏まえ、担任等、教職員個人に集中しがちな学生援助の負担を、各部署と連携し分担することで軽減を図るよう努めた。FD・SD研修会で、学科と学生相談室が共同で実施した障がい学生支援の1事例を紹介し、大学全体への情報提供を行った。

[9] こども研究センター

1. 「こども広場」（月曜日～金曜日：予約制 定員親子 20組 25名）

地域の親子が利用し、楽しみながら子育ての方法を学ぶ為のメニューを提供した。保育士手作りおやつや、手作りおもちゃ等の制作、ふれあい遊び、身体測定、絵本の読み聞かせなどを毎月ごとに工夫した。参加する親子間の地域連帯や、異世代の交流づくりも多くみられた。また、自主研修や授業の場として、学生の実践研究も行われた。

(1) 手作りおやつ

月	内容	組数	こども数
4月	豆腐きな粉バナナパンケーキ	22	26
5月	ホットケーキミックスで簡単クッキー	37	48
9月	簡単おはぎ	13	15
9月	ホットケーキミックスでパン作り	33	38
10月	簡単大学いも	25	36
11月	お麩ラスク	36	46
12月	炊飯器ケーキ	22	39
1月	ぜんざい	29	35
2月	マカロニあべかわ	20	25
計		237	308

(2) 制作

月	内 容	組数	こども数
4月	廃材でこいのぼり作り	33	42
5月	押し花でランチョンマット	34	41
6月	染布	47	59
7月	たなばた飾りを作ろう	35	42
7月	手形&足型アート	52	74
7月	PETボトルでキラアート	23	38
8月	端切れで織物-コースターを作る-	26	45
9月	英字新聞で手作りバック	37	49
10月	秋の実りで作ってみよう	33	46
10月	ハロウィンのモビール作り	73	90
11月	毛糸で織物	23	29
11月	パンで作るクリスマスリース	50	64
12月	端切れでクリスマスリース	54	77
1月	コマ作り	26	35
2月	毛糸で作る雪の結晶	30	34
3月	PETボトルでベビーリーフを育てよう		
計		576	765

2. 「親子で遊ぼう」土曜日・日曜日（月1回）

土・日曜日の開催により、父親や兄弟が参加しやすく家族そろっての参加が多かった。また、以前にこども広場を利用された小学生の親子なども参加された。

月	内 容	組	こども数
4月	等身大こいのぼり作り	10	18
5月	大型積み木で遊ぼう	10	16
6月	赤ちゃん体操	7	9
7月	廃材でおもちゃ作り	8	14
8月	あかちゃん運動会	5	8
9月	親子でビザ作り	14	24
10月	飛行機飛ばし	15	23
11月	絵本フェスティバル	6	12
12月	ミニクリスマスツリーとミニリース作り	12	19
1月	お正月遊びを楽しもう	10	15
2月	プラ板を作ろう		
3月	参加者交流会		
計		97	158

※2月3月のイベント開催は新型コロナウイルスによる中止とする。

3. 「こども応援ひろば」

(1) こども応援ひろば 2019 パート I

学生（CS4 子育て実践演習受講者、及 CS1）と共催。

「ゆめときぼうのわくわくぱーく」をテーマに各ブースで学生が子ども達をゲーム・製作・ダンスで楽しませていた。また実践食物学科やアジアこども学科の協力も得て地域家族に提供した。

また、こども研究センタースタッフは一部学生とパネルシアターを行った。

月 日	内 容		こども人数
7月28日(日)	こども応援ひろばパート I	84組	123人

(2) こども応援ひろば 2019パートII

昨年好評であった「ピアノの魔術師」を迎え公演会を行った。

今年はピアノ奏者も参加し、地域・家族の方たちに提供して楽しんでいただいた。

月 日	内 容		こども人数
2月8日(土)	こども応援ひろばパートII	103組	128人

4. 2019年度 こども研究センターこども広場利用者数一覧表

月次	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	小学生	こども数	参加組数	親数	開催日数	1日平均こども数
4月	9	47	57	33	33	17	1	3	200	145	148	16	13
5月	10	59	79	38	17	15	8	1	227	181	184	15	15
6月	21	67	70	47	16	10	9	1	241	183	183	20	12
7月	15	87	137	66	64	43	25	12	449	305	308	20	20
8月	19	75	76	72	81	32	29	10	394	243	246	18	22
9月	19	43	66	36	31	8	10	4	217	171	171	20	11
10月	45	58	79	51	44	15	18	8	318	243	248	21	15
11月	44	41	63	44	25	17	8	3	245	186	186	20	12
12月	27	31	53	51	43	10	13	7	235	158	159	17	14
1月	9	27	45	39	46	10	6	0	182	144	149	18	10
2月	9	44	42	42	19	21	8	0	185	145	145	17	11
3月										0	0	0	0
計	227	579	767	519	419	198	135	49	2,893	2,104	2,127	202	152
※3月は休館となりました。													

[10] 異文化交流室

1. 海外研修の支援

アジアこども学科では、アジアこども学科生対象の「アジアこども学研修」こども学部及び東大阪大学短期大学部生対象の「国際こども学研修」を実施している。令和元年11月には、フィリピンセブ島に7日間の日程で研修旅行の準備、手続き等の協力をした。

2. 留学生のためのチューター制度の実施

異文化交流室では、チューター学生の活動を組織化し支援している。チューター活動は、外国人留学生に対し、日本人学生が学習面、学校生活面において大学生活にはやく慣れるようサポートしている。

留学生と日本人学生がともに充実した学校生活を送り、様々なイベントを企画・実施する中で、異文化に対する理解を深め、自己成長を遂げることを目的としている。

(1) 日本語能力アップのサポート

毎年2回の日本語能力検定試験の際、チューターに対し問題集の準備や指導法のアドバイス等を行い、留学生の学習支援を行った。

(2) 学内施設の説明

チューター学生が留学生に施設の利用法、健康面のアドバイスを行う際のアドバイスを行った。

(3) 留学生に対するチューター心構えを指導

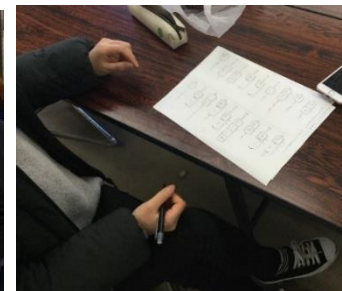
チューターが留学生に接する際、留学生の出身国により、社会、政治、文化、宗教等の違いを理解し対応すること、コミュニケーションの取り方について指導を行った。

(4) イベントの企画と実施のアドバイス

チューター制度の中で、定期的にイベントを行っています。企画、実施は基本的にチューター学生に任せているが、実施の際の諸注意や予算管理の相談等の指導を行った。

2019年度の実施イベント

- ①令和元年5月14日(火) ランチタイム新入生歓迎会
- ②令和元年7月5日(金) セタ・そうめん振る舞い会
- ③令和元年8月22日(木) BBQ イベント
- ④令和元年9月28日(金) プチお月見イベント
- ⑤令和元年10月31日(木) ハロウィンイベント
- ⑥令和元年11月15日・22日・29日(金)
- ⑦令和2年1月12日(日) ハイキングイベント(国際交流クラブ共催)
- ⑧令和2年1月24日(金) ぜんざい振る舞い会



3. 海外での有償ボランティア・インターンシップ説明会開催協力

アジアこども学科で実施する日本語パートナーズ・JICA 海外青年協力隊・海外での有償ボランティア等の説明会資料の準備、整理を年間継続的に行った。

4. 「2019年度 第4回国際交流料理大会—私の国の自慢料理—」の開催

12月8日(日) 本学にて「国際交流料理大会」を開催した。テーマは「私の国の自慢料理」。

出場者は14名(5チーム)。当日はスタッフ10名、観覧者23名(外部観覧者、学内教職員、学生)合計47名が参加した。本大会は、各国の自慢料理を手作りいただき、外国人の方々や地域の方々、また、本学の学生も含め、互いに多文化理解ならび国際交流の楽しさを共有し、東大阪市に愛着をもっていただく契機と位置づけている。大会結果は、下記の通り。

2019年度 第4回国際料理大会結果【2019.2.8(日)】

賞	所属	代表者名	フリガナ	性別	料理名
優勝	アジアこども学科	顧 東陽	コ トウヨウ	男	ロージャーモー
準優勝	実践食物学科	林 春燕	リン シュンエン	女	よだれどり
第3位	成美高校	ADRALES JOYCE KYLA DE GUZUMN	カイラ	女	カルデレータ
努力賞	実践食物学科	英 梨央	ハナフサ リオ	女	おでん
デザイン賞	実践食物学科	山本 佑香菜	ヤマモト ユカナ	女	すし



5. 「2019 年度 第 4 回東大阪大学弁論大会」の開催

東大阪大学弁論大会は、大阪府でも二番目に外国人在住者の多い東大阪市を中心に在住し、語学学習に意欲的に取り組まれている皆さんに、日本語の部と外国語の部に分かれ、日頃の成果を発表するの機会を提供することを広く知っていただくことを目的に実施している。

今年の課題は日本語の部は「感謝」外国語の部は「グラティチュード（感謝）」とし、令和2年1月18日（土）（14:00～17:00）832 大講義室にて弁論大会を実施し、その後8号館1階ラウンジにて交流会（17:15～18:15）を実施した。

「第4回東大阪大学弁論大会」の結果については、下記にて報告。

参加者は、外国語の部 5名、日本語の部 8名、国連WFPエッセイ受賞報告スピーチ 1名、カラオケ 1名その他来場者、スタッフを含め、53名。

2019 年度 第 4 回東大阪大学弁論大会結果【2020.1.18（土）】

課題：日本語「感謝」外国語「グラティチュード（感謝）」

部門	賞	所属	名前	フリガナ	性別	副題
外国語の部	優勝	c19029	高橋 佑奈	タハシ ユナ	女	感謝という言葉
外国語の部	準優勝	大手前大学	中西 健志	ナカニシ ケンシ	男	20歳の感謝
外国語の部	第3位	c19035	平井 詩絵	ヒライ シエ	女	両親への感謝
外国語の部	努力賞	a18029	吉田 早希	ヨシダ サキ	女	両親への感謝
外国語の部	努力賞	818013	上田 優華	ウエダ ユカ	女	私の夢を育ててくれた人
日本語の部	優勝	大阪府立成美高校	小川 美湖未	カガワ ミコミ	女	人生の旅
日本語の部	準優勝	大阪府立成美高校	CUYNO KISHA MAE	クイノ キシャ マイ	女	大好きな先生
日本語の部	第3位	a19008	DUONG THI HANH	ズオン ティ ハン	女	父へ

日本語の部	第3位	福井高校 2年生	坂井 治	カイ オサム	男	グラティチュード(感謝)
日本語の部	努力賞	c19026	張 宇輝	チョウ ユキ	男	両親への感謝
日本語の部	努力賞	a19010	TRAN THI THU HUONG	チャン ティトゥ フォン	女	石川先生へ
日本語の部	努力賞	a18019	DUONG THI LE	ズオン ティレ	女	両親への感謝
日本語の部	努力賞	c 19047	劉 睿涵	リュウ エイカン	女	自分へ

国連 WFP チャ リティエッセ イコンテスト 歌		218017	蘇 鑫	ソキン	男	受賞スピーチ
		a17031	PHAM VAN KHANG	フナム バン キャン	男	MAI MAI BEN NHAU



6. 異文化交流室前の整備

8号館7階異文化交流室の入口付近に、留学生及び海外留学用のパンフレット掲示棚を整備し椅子、テーブルを設置した。

7. 国際交流クラブ活動への協力

本学学内での国際交流活動だけでなく、東大阪市内在住外国人との交流活動や学内語学学習促進活動を目的としたクラブを設立。毎週木曜日昼休みに異文化交流室を部室として使用し、クラブ部活動にBBQ大会、ハイキングイベントをチューター活動と共催すること等の支援を行った。

[11] 産官学地域連携室

1. 東大阪市連携6大学公開講座

2020年2月4日(火)～2月9日(日)に東大阪市教育局主催「第9回平成30年度 東大阪市連携6大学公開講座」が開催され、本学からは実践食物学科源教授(産官学地位連携推進室長)が参加しました。内容は、下記の通りです。

開催日: 令和2年2月9日(日)

開催場所: 東大阪市内 男女共同参画センター
イコーラム

講演者: 源 伸介教授

講演テーマ: 再生医療とモノづくり技術

来場者数: 65名(会場アンケート提出数)



2. 東大阪市大学連絡協議会

2019/6/7（金）東大阪市役所にて「第1回東大阪市大学連絡協議会」幹事会及び実務担当者が開催されました。

案件

- (1) 平成30年度事業報告及び平成30年度会計報告
 - ①平成30年度東大阪大学連絡協議会事業報告
 - ②平成30年度インターンシップ研修生受け入れ実施結果
 - ③平成30年度地域研究助成金採択者報告
 - ④平成30年度会計報告
- (2) 令和元年度事業計画
 - ①令和元年度大学連絡協議会事業計画
 - ②インターンシップ制度による研修の実施について
 - ③令和元年度地域研究助成金実施状況について
 - ④令和元年度連絡協議会予算案の承認
- (3) 東大阪市大学連絡協議会における会議の見直しについて
- (4) その他（行政情報等）
 - ①10/4に東大阪市文化創造館にて開催される「NASA チーフサイエンティスト講演会」への各大学学生への参加協力要請
 - ②大学への情報提供資料として、東大阪市が実施している事業のパンフレット、チラシの配布

出席：源、川田

3. 産官学交流事務局会議

2019/6/14（金）東大阪商工会議所主催「第118回「産官学交流事務局会議」が開催され、各事業について協力依頼がありました。

議件

1. 東大阪商工会議所平成30年度重点事業について
 - (1) 中小企業施策についての意見活動
 - (2) 事業継承支援事業と創業支援の推進
 - (3) ビジネスチャンスの拡大
 - (4) 商工業活性化事業の推進
 - (5) 金融・税制等に関する経営支援
 - (6) 人材確保・育成と雇用対策事業の推進強化
 - (7) IT化に対応した事業の推進
 - (8) 財政基盤の確立
 - (9) 地域経済等の調査研究と情報提供
 - (10) 小規模企業等の経営改善推進
 - (11) 福祉の増進と技能検定、顕彰の推進
 - (12) 環境問題と資源リサイクルの取り組み
 - (13) 会員サービスの向上
 - (14) 職員の資質向上と業務の合理化
 - (15) 第28期議員選挙の実施
 - (16) 商工会議所新会館建設の推進
 - (17) クリエイション・コア東大阪における関連機関との連携
 - (18) 関連団体への支援
2. 2019年度産官学交流事業について

3. 2019年度インターンシップ支援事業について
4. 近畿大学研究シーズ発表会について
5. 大学就職部と東大阪府域企業採用担当者との情報交換会開催結果について
6. 合同企業説明会・業界研究会（女子ナビ）2020実施結果について
7. 東大阪合同企業説明会 2020開催について
8. 外国人留学生合同企業説明会開催について
9. 第32回東大阪産業展開催について
10. 女性向け創業塾開催について
11. インターネットショップ開業塾開催について
12. おおさか地域産業資源活用サポート事業について
13. 2018年度、2019年度の産学研究事業・就職状況について（出席各大学より発表）
14. 東大阪府経済部 2019年度主要事業について
15. 日本政策金融公庫東大阪店 産学交流事業について

出席：浅野、川田

4. ひがしおおさか体感まち博

昨年度に続き、「ひがしおおさか体感まち博 2019」に参加しました。

実施期間：2019年9月13日（金）～11月4日（月・祝）

参加プログラム：57のプログラムを東大阪市の企業・店舗等が実施

主催：一般社団法人東大阪ツーリズム振興機構

本学の参加プログラム：

①「未来の食糧難を救う話題の昆虫食を知ろう」

日時：10月12日（土） 10:00～12:30 場所：8号館1階調理室

指導：松井 教授（実践食物学科長） 台風19号のため未開催

②「東大阪産の材料でカラフルたこ焼きづくり！」

日時：10月14日（月・祝） 11:30～13:00 場所：8号館1階調理室

指導：源 教授（産官学地域連携室長） 参加者数：9名



5. カレーパン会

8月25日開催の「村上学園学園フェスタ」において、昨年度に企画し、東大阪カレーパン会の加盟店が製作した「2019 花園出場7か国風カレーパン」をスタンプラリーの景品として提供した。

6. 高大連携事業

年間を通して、東大阪大学・東大阪大学短期大学部の教員が、東大阪大学敬愛高等学校、東大阪大学柏原高等学校に以下のような高大連携授業を実施した。

2019年度 東大阪大学高大連携一覧

	実施日	曜日	時限*	学年	コース	担当教員	所属学科	授業内容	場所
柏原高等学校	4月18日	木	5	2年生	スポーツコース	源	実践食物	進路研究(栄養学の基礎)	柏原
	4月25日	木	5	2年生	スポーツコース	源	実践食物	進路研究(栄養学の基礎)	柏原
	5月9日	木	5	2年生	スポーツコース	源	実践食物	進路研究(栄養学の基礎)	柏原
	5月16日	木	5	2年生	スポーツコース	源	実践食物	進路研究(栄養学の基礎)	柏原
	9月12日	木	5	2年生	スポーツコース	早田	実践食物	進路研究(栄養学の基礎)	柏原
	9月19日	木	5	2年生	スポーツコース	源	実践食物	進路研究(栄養学の基礎)	柏原
	10月17日	木	5	2年生	スポーツコース	源	実践食物	進路研究(栄養学の基礎)	柏原
	10月24日	木	5	2年生	スポーツコース	源	実践食物	進路研究(栄養学の基礎)	柏原
	11月7日	木	5	2年生	スポーツコース	源	実践食物	進路研究(栄養学の基礎)	柏原
	11月14日	木	5	2年生	スポーツコース	源	実践食物	進路研究(栄養学の基礎)	柏原
	5月8日	水	3・4	1年生	調理コース	岡本	実践食物	製菓実習	柏原
	5月11日	土	1・4	2・3年生	アップ・アシストコース	岡本	実践食物	製菓実習	本学
	6月26日	水	3・4	1年生	調理コース	岡本	実践食物	製菓実習	柏原
	9月7日	土	1・4	2・3年生	アップ・アシストコース	岡本	実践食物	製菓実習	本学
	9月28日	土	1・4	2・3年生	アップ・アシストコース	岡本	実践食物	製菓実習	本学
	10月5日	土	1・4	2・3年生	アップ・アシストコース	岡本	実践食物	製菓実習(ブドウジャム作り)	本学
	10月23日	水	3・4	1年生	調理コース	岡本	実践食物	製菓実習	柏原
	11月9日	土	1・4	2・3年生	アップ・アシストコース	岡本	実践食物	製菓実習(ブドウジャム作り)	本学
	11月13日	水	3・4	1年生	調理コース	岡本	実践食物	製菓実習	柏原
	1月8日	水	3・4	1年生	調理コース	岡本	実践食物	製菓実習	柏原
	2月5日	水	3・4	1年生	調理コース	岡本	実践食物	製菓実習	柏原
	4月20日	土	1・2	3年生	保育教育(選択)	今井	こども	発達と遊び一身体を使った遊び	本学
	4月20日	土	1・2	2年生	保育教育(選択)	後藤	実践保育	4月5月の保育内容	本学
	4月20日	土	3・4	3年生	保育教育(選択)	川谷	こども	「赤ちゃんの不思議に会おう」	本学
	4月20日	土	3・4	2年生	保育教育(選択)	桑田	実践保育	保育園の1日の流れ	本学
	5月11日	土	1・2	2・3年生	保育教育(選択)	野尻(合同)	実践保育	発達と遊び一身体を使った遊び	本学
	5月11日	土	3・4	3年生	保育教育(選択)	高岡	こども	こどもとの信頼関係を築くには	本学
	5月11日	土	3・4	2年生	保育教育(選択)	桑田	実践保育	赤ちゃん人形を使って	本学
	5月18日	土	1・2	3年生	保育教育(選択)	池澤	実践保育	病気について:対応と感染予防	本学
	5月18日	土	1・2	2年生	保育教育(選択)	篠原	実践保育	楽譜を読むには	本学
	5月18日	土	3・4	3年生	保育教育(選択)	川谷	こども	こどもの健康と遊び	本学
	5月18日	土	3・4	2年生	保育教育(選択)	池澤	実践保育	幼児期の病気	本学
	6月1日	土	1・2	3年生	保育教育(選択)	今井	こども	発達と遊び一文字、数字記号に親しむ	本学
	6月1日	土	1・2	2年生	保育教育(選択)	野尻	実践保育	身体表現	本学
	6月1日	土	3・4	3年生	保育教育(選択)	丹山	こども	ピアノを演奏してみよう一右手だけ	本学
	6月1日	土	3・4	2年生	保育教育(選択)	野崎	実践保育	作って遊ぼう①	本学
	6月15日	土	1・2	3年生	保育教育(選択)	川谷	こども	子どもの絵本、紙芝居などを知らう	本学
	6月15日	土	1・2	2年生	保育教育(選択)	後藤	実践保育	6月7月の保育内容	本学
	6月15日	土	3・4	3年生	保育教育(選択)	高岡	こども	こどもの理解と心理テスト	本学
	6月15日	土	3・4	2年生	保育教育(選択)	野尻	実践保育	手遊びふれあい遊び	本学
	9月7日	土	1・2	3年生	保育教育(選択)	今井	こども	発達と遊び一小麦粉粘土	本学
	9月7日	土	1・2	2年生	保育教育(選択)	野崎	実践保育	作って遊ぼう②	本学
	9月7日	土	3・4	3年生	保育教育(選択)	丹山	こども	ピアノを演奏してみよう一左手だけ	本学
	9月7日	土	3・4	2年生	保育教育(選択)	後藤	実践保育	9月10月の保育内容	本学
	9月28日	土	1・2	3年生	保育教育(選択)	丹山	こども	こどもが歌う曲を演奏してみよう	本学
9月28日	土	1・2	2年生	保育教育(選択)	桑田	実践保育	絵本、紙芝居の読み聞かせ	本学	
9月28日	土	3・4	3年生	保育教育(選択)	高岡	こども	こどもの発達と心理①	本学	
9月28日	土	3・4	2年生	保育教育(選択)	篠原	実践保育	片手でピアノ	本学	
10月5日	土	1・2	3年生	保育教育(選択)	池澤	こども	けがの対応について	本学	
10月5日	土	1・2	2年生	保育教育(選択)	後藤	実践保育	11月12月の保育内容	本学	
10月5日	土	3・4	3年生	保育教育(選択)	川谷	こども	子どもの遊び:おもちゃと安全	本学	
10月5日	土	3・4	2年生	保育教育(選択)	池澤	実践保育	けがの対応について	本学	
10月19日	土	1・2	3年生	保育教育(選択)	大短合同		幼児の遊び場づくり	本学	
10月19日	土	3・4	3年生	保育教育(選択)	大短合同		幼児の遊び場づくり	本学	
11月9日	土	1・2	3年生	保育教育(選択)	丹山	こども	子供が実際に演奏した曲をアップルで演奏しよう	本学	
11月9日	土	1・2	2年生	保育教育(選択)	篠原	実践保育	楽器作り	本学	
11月9日	土	3・4	3年生	保育教育(選択)	高岡	こども	こどもの発達と心理②	本学	
11月9日	土	3・4	2年生	保育教育(選択)	後藤	実践保育	2月3月の保育内容	本学	
1月18日	土	1・2	2年生	保育教育(選択)	野尻	実践保育	伝承遊び	本学	
1月18日	土	3・4	2年生	保育教育(選択)	野崎	実践保育	作って遊ぼう③	本学	
4月13日	土	3・4	3年生	社会福祉系列	鷹野	介護福祉	社会福祉について	柏原	
5月18日	土	3・4	1・3年生	社会福祉系列	富岡	介護福祉	介護実習体験(半身不自由)	本学	
6月1日	土	3・4	3年生	社会福祉系列	富岡	介護福祉	利き手を使わず、要支援者の気持ち体験	本学	
6月8日	土	3・4	1・3年生	社会福祉系列	重松	介護福祉	トーンチャイムの演奏	本学	
6月15日	土	3・4	1・3年生	社会福祉系列	李	介護福祉	レクリエーション概要、目的、意義、実践	本学	
9月7日	土	3・4	3年生	社会福祉系列	川根	介護福祉	ノンバーバルコミュニケーション	本学	
9月28日	土	3・4	3年生	社会福祉系列	梓川	介護福祉	社会福祉について	柏原	
10月5日	土	3・4	1・3年生	社会福祉系列	五十嵐	介護福祉	実技(アイマスク体験)	柏原	
10月19日	土	3・4	1・3年生	社会福祉系列	鷹野	介護福祉	福祉map作り	本学	
11月9日	土	3・4	1・3年生	社会福祉系列	五十嵐	介護福祉	実技	本学	
2月15日	土	3・4	1年生	社会福祉系列	梓川	介護福祉	福祉理念	柏原	
敬愛高等学校	実施日	曜日	時限*	学年	コース	担当教員	所属学科	授業内容	場所
	6月1日	土	3・4	2・3年生	アップ・アシストコース	岡本	実践食物	製菓実習	本学
	6月15日	土	3・4	2・3年生	アップ・アシストコース	岡本	実践食物	製菓実習	本学
	8月28日	水	3・4	2・3年生	アップ・アシストコース	岡本	実践食物	製菓実習	本学
	8月29日	木	3・4	2・3年生	アップ・アシストコース	岡本	実践食物	製菓実習	本学
	9/2-12/2	月	6・7	3年生	調理製菓コース	源	実践食物	食生活論(全8回)**	本学
10/1-1/21	火	6・7	3年生	CS合格者	杉本(剛)	こども	脳と心(全15回)**	本学	
9/24-1/14	火	6・7	3年生	AC合格者	野々村	実践保育	社会学(全15回)**	本学	

*高等学校の時間割

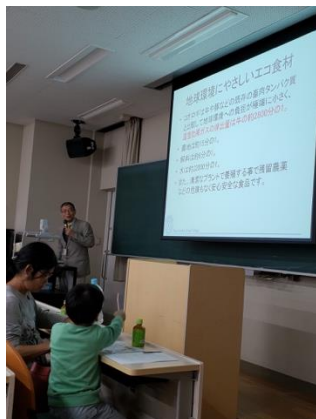
**大学・短大の授業として実施し(時間割記載)、入学後単位化(単位互換)

[12] 公開講座

2019 年度公開講座

東大阪大学・東大阪大学短期大学部の各学科へ公開講座を依頼し、開講しました。

- 昆虫食の世界（なぜ、虫を食べるの？） 10月26日（土）10：00～12：00 932 教室
東大阪大学短期大学部 実践食物学科 松井欣也 受講人数 26名



- 相続法のミニ知識 一家族法の話ー 10月26日（土）13:00～14:30 932 教室
東大阪大学短期大学部 実践保育学科 野々村宜博 受講人数 14名



- 認知症予防について 11月16日（土）10:00～11:30 851 教室
東大阪大学短期大学部 介護福祉学科 重松義成 受講人数 16名



○プログラミング体験～新たなものづくり～ 11月16日(土) 11:30～13:00 861教室
東大阪大学 こども学部 こども学科 矢島彰 受講人数 26名



○「栗と抹茶のモンブラン風ロールケーキ」 11月16日(土) 13:00～15:00 814教室
東大阪大学短期大学部 実践食物学科 製菓衛生師コース 岡本貴司 受講人数 34名



○「音楽で世界の旅Ⅳ」 -マリンバとピアノコンサート- 12月7日(土) 10:40～11:40 832教室
東大阪大学 こども学部 こども学科

丹山三恵子・阿久津啓・太田寛子・尾崎克典・林朝子 受講人数 78名



○水道のお話-蛇口から出る安心を次の世代につなげるために- 12月7日(土) 13:00～14:30 841教室
東大阪大学 こども学部 アジアこども学科 武学穎 受講人数 8名



[13] FD・SD研修

令和元年度においてFD・SD委員会は以下の2事業を実施した。

1. 第1回FD・SD研修会

テーマ：「多様性を尊重する教育・支援のあり方について」

開催日時：2019年7月18日（木）15:00～16:00 場所：85会議室

レクチャー 石鍋 浩先生

進行：李 相済 受付：事務方 周知：全教職員へ

出席：教職員38名 事務職員15名 計53名

アンケート実施

人権教育推進協議会との共催として、『多文化共生』の科目を担当している介護福祉学科所属の石鍋浩先生より、「マイクロ・アグレッション」を中心テーマに研修がなされた。民族、国籍のみならず、性別や年齢に関しても、無意識に相手を複雑な気持ちにさせる言動に留意することの重要性について、講習とワークショップを通じて再認識することができた。

2. 第2回FD・SD研修会

テーマ：「障がい学生のための修学等支援のあり方について」

開催日時：2020年1月9日（木）14:40～15:40 場所：85会議室

レクチャー 潮谷 光人先生

進行：李 相済 受付：事務方 周知：全教職員へ

出席：教職員30名 事務職員10名 計40名

アンケート実施

子ども学科所属の潮谷光人先生より、障がい学生のための就学等支援方策について研修がなされた。当校の障がい学生支援規程の策定の経緯、および支援フローや支援実施に係るマニュアル等について概説がなされた。また、学生相談室の木下敬子先生より、過去の支援事例（発達障害がある学生への支援）が紹介された。後半は、4～5人のグループに分かれ、日常的な教育・支援場面で障がい学生への支援や対応について話し合い、現状の把握や今後の支援のあり方について討論した。

[14] IR研究プロジェクト

1. 学修成果の到達目標の検討

各学科において、資格等の取得に合わせて「学習成果の見える化」について検討を行っています。

2. 学生情報データの共有化

入試広報、学生支援部、各学科やアドバイザーが持つ学生情報のデータの一本化を目指していますが、本年度は、どのような情報があるかの洗い出しに留まりました。

3. 授業評価アンケートの充実

学生による授業評価アンケートを前後期2回実施しましたが、Web化による入力方法の簡便化の反面、時間を決めて入力させるなどの取り組みが不十分なため、回答率を上げるには至りませんでした。